

79
491

信濃山林會第四回
總會附屬講話會
講話筆記

全

065252-000-8

79-491

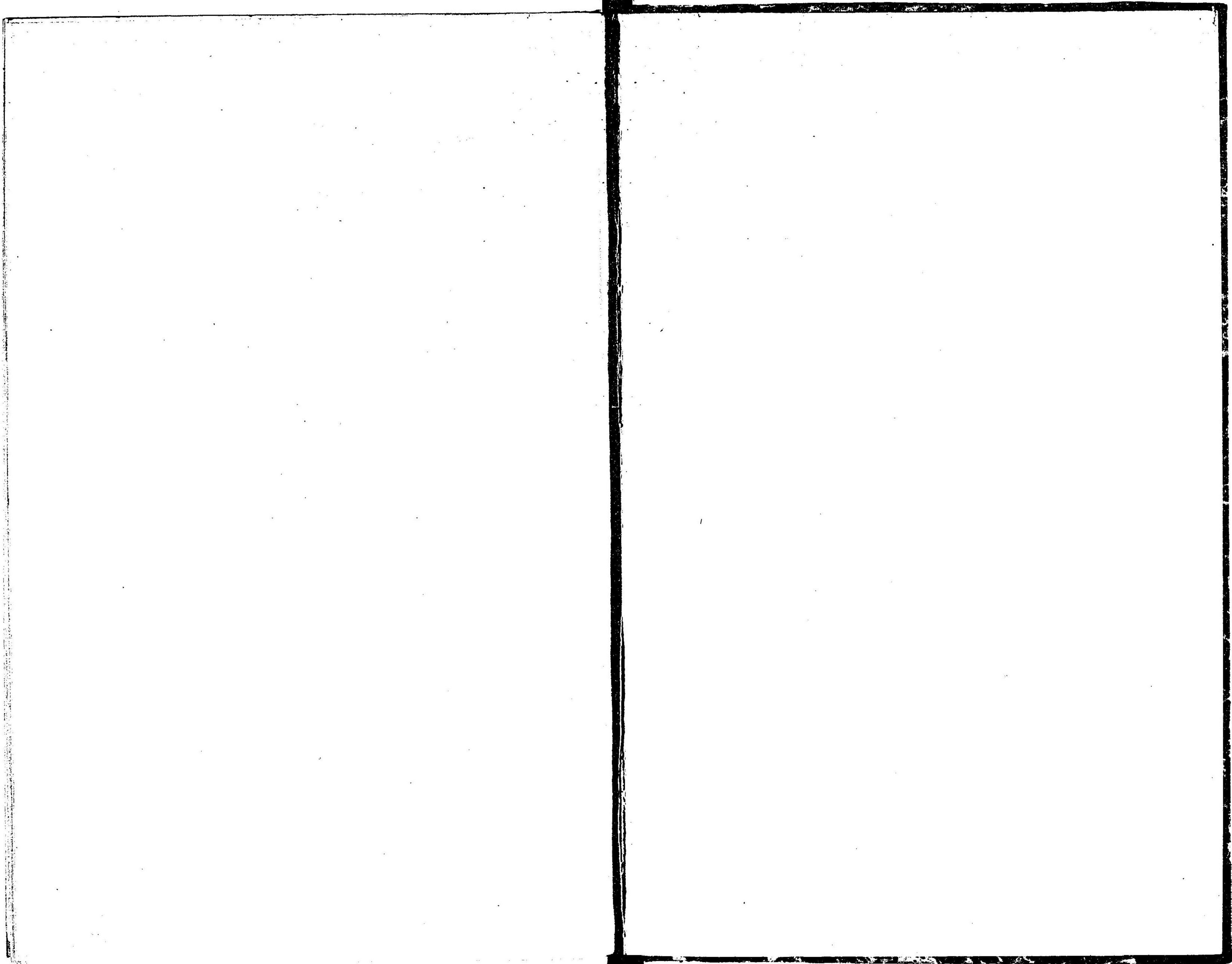
信濃山林會第四回總會附屬講話會講話筆記

信濃山林會

M37.12

CCE-0086





信濃山林會第四回
總會附屬講話會
講話筆記

79-491



ノ荒廢ヲ興シ之レガ保全ノ實ヲ全ク
 森林智識ノ普及ヲ圖ルヨリ急ナルハ
 會此ニ見ルアリ曩ニ第四總會ニ於テ
 シ特ニ時宜ニ適切ナル講話ヲ請ヒシ
 博士大塚ヲ聘シノ耳朶ニ及バザランヲ慨シ之ヲ刊刻
 ガ其説ノ一般ノテ廣ク頒布セントス蓋シ當業者ニ資スル事少
 シテ廣ク頒布セントス蓋シ當業者ニ資スル事少
 ナラザルヘキヲ信ス希クハ業ニ森林ニ從フモノ之
 チ讀ンデ其經營施設ニカムルアラバ信州林業
 達期シテ俟ツベシ以テ序トス

明治三十七年十二月

信濃山林會幹事長 林學士 磯山廣居

明治
 38 1 8
 内交

佛國伐木技師シユツボン氏嘗テ我邦ニ遊ビ山林ノ荒
廢ヲ見テ談リテ曰ク如此膏美ノ地アリ此如運輸ノ便
アリ而シテ如此現況ヲ呈ス此勢ヲ以テセバ遂ニ木材
ヲ國外ニ需ムルノ時至ラント予昨年大坂ニ在ルヤ築
港ヲ見ント欲シ先ツ其棧橋ニ至リ大艦巨船ノ緊接シ
テ碇泊セルヲ見轉タ其規模ノ廣大ナルニ驚クト共ニ
其橋材ヲ米國ニ得タルヲ聞クニ及ビシユツボン氏ノ
豫言ハ正ニ當レルヲ悟リ慨然タルモノ久シカリキ今
ヤ皇軍ハ能ク露軍ヲ滿洲以外ニ驅逐スルノ勇武アル
ニ反シ我山林ノ生産力ハ僅ニ橋材ノ侵入ヲ防クニ足



講話筆記

保科川流域砂防工事の成績

上高井郡保科村長 山岸花藏代 島田光作

私は上高井郡保科村の助役島田光作であります、本日は村長の山岸花藏君が参りまして保科川流域砂防工事の成績と云ふことに就て聊か御話を致す筈でありましたが昨日より不快の様子で御座りまして本日参る事が出来ませんが爲めに不肖光作が代て村長の代讀同様に一言致しまする次第で御坐います

保科川の流域ある保基谷山の砂防工事は如何なる効力があつたかと云ふ事を申述ぶるに先だつて聊か此保科川は如何なる川であるかと云ふ來歴を述べねばなる必要が有ると云ふ考であります、借て此保科川と云ふ川は其源を保基谷山に發しまして保科村地籍内を過ぎ川田、綿内兩村の間を流れて千曲川に合流する荒川であります、其始まりは得て知ることが出来ません、第一其源たる保基谷山は何時頃出来たものか今日より其頃の有様を想像する事が出来ません故に保科川の太古の有様は今日にては到底知ることが出来ないのであります、去り乍ら今より大約一千年前頃に至りては略ほ得て知る事が出来します、其當時此川は保科、川田、綿内三村の中を自由自在に流れて居つた様子である、降て五百年前頃に至りましては畧は其川の位置が定まつて多く動かん様に成つたのであります、此頃は随分深い川であつて今の様を川底の高い川ではないので窺いて見る様を深い川

であつた様であります、又此川は一名菱川とも申します、夫れはずと昔は深淵清流を川でありまして不斷菱が多く生じて居りましたからの事であります。處が延徳元年の大洪水の時分から石河原と變じ川底が高くありはじめて夫から後の寛保二年の大洪水乃ち成の満水と云ふ時に保基谷山其他の山が崩れて其土砂が多く流れ出した爲めに川田、綿内、保科三村の地籍は大層荒れた事があり爾來今日に至る迄大約百六十年の間保基谷山其他の山々は雨や雪の爲めに崩潰することが益々多くありました。近頃禿げ山の面積を調査致して見ましたら既に砂防工事を施された面積をも合せて大約三十丁歩もありました。斯る次第でありますから吾が三ヶ村が永年の間困難致したとは思ひやられるのではありませんか、尙ほ一言成の満水から今日に至るまでの變化を申述べて置きと一御座ひます。諸君が川田から綿内へ御通りにある縣道谷街道中に保科川にかゝつて居る高橋と云ふ橋があります。今は平地よりは貳間も高い處に橋がかゝつてあります。此橋は今より百三十年許り以前の天明時代には平地同様にかゝつて居て水面からは二間も高かつたと云ふとで。こんなち深かつた川が段々に川底が埋まつて今では橋を架けるに平地よりも二間も高い所に架けなければならぬ様になりました。斯の如く川は見上る様に高くあつて居る所を水は流れて居るから此の一事を以ても沿岸地方の困難は推察されるでは有りませんか、斯る次第でありますから年々歳々三ヶ村の人民が川浚ひを施しつゝありましたが如何せん此の川の源たる保基谷山の山が崩れるのでありますから適ふものではありません、殊に明治二十九年卅一年の大洪水は層一層の慘狀を極めました。今其被害の面積をざつと算しますれば保科村が百町歩川田村が三四百町歩綿内村が四百町歩許りになります。誠に困りきつて仕舞ましたから茲で三ヶ村の有志は相談しま

して砂防の方法を講ずる事となりましたが、何分砂防工事をやると致しまするには數万と云ふ金を投しなければならぬ到底三ヶ村位では是を爲すとは出来ぬと心配致して居りました。う一致すと時恰も善し幸に砂防法と云ふ法律が實施せらるゝ事に遇ひましたから三ヶ村は合同協議を遂げまして三村長より伊藤郡長閣下の意見書を添へて貰て、砂防工事をして貰ひたいと云ふ願ひを本縣廳に出しました、然る處縣廳に於かれても幸に願意を御採りになりました三十二年の今頃の縣會に即ち砂防費を加へて提案せられたのであります。未だ其頃は砂防工事と云ふものは必要であると云ふ事が多く認められん時であつたから各議員間に不必要であると云ふ方も随分あつた様であります故に此の三村の有志等は若し縣會に於て否決せられるば學生の熱望も水泡に飯する次第でありますから大いに議員間を運動して漸く可決を得て長野縣の縣會が砂防工の必要を認むるようになりました。依て本縣事業として卅三年より砂防工を實施して戴く事にありまして誠に感謝の至りに堪へない次第に御座います、處が獨り縣廳のみならず大林區署に於かれましても並に實施せられるとにありましたのは意外ある恩澤で感謝と云ふて宜しいやら何と云ふて宜しきや何とも謝するに言葉もありません。三十三年三十四年の此兩年度に於て本縣に於ては約一万三四千圓を費され大林區署に於かれては五千七千と云ふ金を投せられ約二万圓を以て砂防工事を施されたが。今是れが爲めに三村に對して如何なる効力あるかと云ふに、砂防以前にはほんの僅かある降雨でも直ちに土砂を推出して水の色は直く變じますが頃者は僅か許りの雨では色を換へて土砂を流出する様を事はありません。以前は僅かの出水でも川底を嵩めましたものが只今では川底を幾分つゝ掘る様にありました、又以前は河身が一定しないで鳥渡の出水でも自由自在

に變じつゝありましたものが段々と川筋が一定する様になりました、本年の洪水の如きも近年稀ある出水で大層出ましたが三村とも被害はありませんでした。却て川底は砂石を深へ去て余程深くまりました。川底と橋と密着する様も隙も際て来る様に段々なりました。堤防と川とは平にかつた處や或は盛つた様も川底も段々に堤防が中側も顯はれて来る様になりました、つまり是れは山崩れの土砂が止まつて川底にある土砂は深ひ去つて海へ運びだすからであります。大洪水や大降雨は別であります。が僅か位の出水でも以前は困難したものが是れよりは有益な出水とあります。此順で砂防工事も完成されたり又年月を経るに従ては山は治まり川は掘れて數百年前の菱の生ずる様を深淵清流に復することが出来ると思ひます。是が砂防工事に於ける近頃認めれた効蹟であります。三ヶ村は深く感謝する處でありますから本日私は此三村に代り長野縣一般の諸君に御禮を一言申述ぶる次第であります。

猶私は信濃山林會員の一人として聊か意見を述べて置きたい事は此山林會の旨意として信濃の諸山は皆鬱々蒼々たる山にして行くに云ふのか山林會の目的であります。が是れと同時に長野縣の砂防工を供に進めて行き度へと云ふ希望であります。

此頃縣廳に伺ふたとき此長野縣の砂防を悉くおすにはどの位の費用がかかるかと御尋ね致しました處が月岡氏の申さるゝには約一億二億の金を投せなければ完成する事は以來んと云ふ御話でありました。が成程數億と云ふ金は多いが併し廿九年卅一年の洪水に於ける長野縣の被害は推考して見ますと何億と云ふ被害であるか分らんと云ふ。又其當時の土木の工事の如き數百萬圓と云ふ金を投じ其後に至りても年々數十万と云ふ治水費を要する次第であります。吾が山林會は殖林と

砂防の事を盛かんに唱導して本縣至る處の禿げ山を始めて仕舞たならば廿九年三十一年の様を洪水は見たくも見る事が出来ん事にあると思ひます。又年々治水費として數十万圓を投せんくもよい事にあると思ひます。から治水杯と云ふ事許かりを念頭に置かず其本たる處の山を皆治める事が必要と考ひます。聊か愚見を述べ併せて諸君に謝します。

博 覽 會 視 察 談

本縣博覽會視察員本會幹事 西 澤 貞 治

私は西澤貞治であります。諸君の中には御目よ懸つた方もあろし未だ御目に懸つた事のない御方もあろしと存しまして姓名を申上げて置きます。自分の如き林業に關し何等の經驗もなく又學問のなき身を以て當夏大坂表に開設せられたる第五回内國博覽會林業部の視察すべき知事の命を奉じ出張致しました。所以のものは森林施設の消長は國家富強の上に大影響あるべきは勿論日本全國の山林原野は實に全面積の五分九厘を有する中我長野縣は比較的多く山野反別を有する事にもあります。すれば他府縣の斯の業の如何程迄に進歩し居るかを知らざるべからざるを豫想致しまして参つたのであります。

扱て彼の地に參つて見るに特に林業館とて大なる建物を設けられろしして中には數万点の出品を陳列するに林業の方法を始めとし林業の器具材木等であります。が私し如き頭腦に林業の事柄が別からぬものは此に至つて殆んど困りました。御同様木理正しい立派の木である美しくして逆目もなき杯は一寸と見別も出来ませんが其林業の姿にして斯く迄に至りしかを思ひ出した。が彼の林業館を

見た處には只美しいと云ふより外は無いのでありますが能く目に止まりましたもの二三廉申上げれば

静岡縣の出品中「ツガ」の四方マサの材木で五寸角の貳丈貳尺乃至貳丈六尺と云ふ長さのもの貳拾本で四百圓乃至五百圓と云ふ價が付けてありまして日本一と云ふ名がありました成程日本一には相違をかるべし段々館中を見ても是等を越す處の材がないと思はれました

随分木の目も正しいが價段も中々容易からん高價であるを試に其地方の人に聞て見ますと實は少し價値を安く賣つたと云ふ譯だらうであります諸君如何で御座りますか僅か五寸角で長さが貳丈五六尺のもので四百圓五百圓で賣つてまだ夫れで安く賣り過ぎたとは實に驚くの外ないのであります随分此材木の價値も能いか又使用者が多いからであります段々世の中の人が増加するに従ひ建築材の必要を生じて參るが故に材木の價値も高くあるのは當然の事と思ひますか静岡縣杯の材木の如き貳丈貳尺や貳丈六尺で四百圓五百圓の價を付けて置いて是が忽ち賣れたと云ふは畢竟供給の需用を満たす事の出来ぬ現象と申して宜ろしかろと存じます

奈良縣杯も林業が頗る盛ある地であるが故に既に博覽會に出してあるものは孰れも皆立派なものでありました夫れから吉野郡の龍門村坂本某より寫真が出て居りました皆年代を別けて拾三年生拾六年生としてありました拾三年生のは長さが拾尺で末口が一吋三分拾六年生のが長さが拾四尺で末口が一吋七分夫れから參拾貳年のものは末口が五吋三分で百年生のが末口が一尺八寸でありました乍併是れは只寫真で見ただけのものであるから實際に付いて取調べされば能く分りませんが爲めに後に吉野の山に這入て見たのであります吉野山の林業はど一であるかと申します

聊か長野縣の爲めに其眞似を皆さんに致して貰ひたいと考へるうれば後に申上ます

ここで材木は全く金にあると云ふて其樹種を擇ばず、あんでも植付けると云ふ事は不條理の話で暖地と寒地とに依て其趣きを異にするので京都や伊豆で楠が誠に金になるからと云ふを聞き直ちに其眞似をしてもう一うまく參らんもので其土地に相當する處の種子を擇らんで爲さざれば結局失敗に終るものでありますから注意すべき点と思ひます

夫れから滋賀縣からは「ハゲシバリ」と云ふ木が出て居りましたが是れは長野縣に取つて植たらよかろ一と思ふ「ハゲシバリ」とは山楡と書へてある一名キメ矢遮無遮の事かと思ひますが成長早く乾燥地に堪え三四年にして根が能く張り鬱閉を致しますとの事であるから秀山又は保科の助役さんの前席に述べられた砂防工事の必用箇所に植たらば宜敷と考ひるのであります、そ一して植付後三四年にて「ハゲシバリ」の繁茂せば其間々へ赤松あり何あり適當の樹種を植へて其ハゲシバリを皆伐採するもので金もかゝらずして能く山を治める事が出来る様に思ふ此種は山林會に於て滋賀縣から取り寄せて蒔て試験をやつて貰へたい固より價値も余り高いものでもなく一升廿五錢か卅錢位のものでありますから是非實行して貰ひたい事であります

是れから吉野へ這入つた御話を致しますから兎に角吉野の林業は取つて以て吾か縣下の手本と致したいと考へたのであります夫れはかど申しまするに林業が盛んで既に業に整頓して居るのであります

私共の吉野に這入ります時は未だ幾分の残れる櫻の花もありましたが櫻を見るよりも猶杉檜湯滑林を見るのが趣味ありて遂に一目千本の櫻をみるの場所をも見ずに登りまして吉野山に這入つた

ろこには土倉庄三郎と云ふて吉野郡川上村字大瀧の人にて非常に林業には熱心であると云ふ事を聞いて其人を訪ひ其人の山の有様を見た處かすつかり植込んであつて廣き山々整然として中々立派なもので晝猶暗く雨が降つても雨か下に落ちん位のもので盛にあつて居る多くの木の中には鬼角曲かつたものがある筈あるも更に此の人の山林には曲かつた木が在るのであります夫れはど一云ふ事にしてかご申しますと木が少し曲り初めれば繩を以て撓めるから更に曲つた木が在るのであります又深山の中であるから猪杯か來て木の皮を喰ふより氏は最も丁寧に愛すべき木であるが故に凡て髪の毛を容れ杉の皮にまきつけ置くから獸類は更に口を付けぬとの事である此土倉庄三郎氏は武万町歩からの森林を以て居るのに平素は取締る人夫は僅に八人雇て置くのみであるそ一であります此八人の人々は毎日折角と山の中を見て保護して居るので、とても此例を以て來て直ぐ長野縣に應用せんとしても盜伐者の入り込むとのある土地には固より無理な話であるから行ふはれませんが實に驚くの外は在りません

此の土倉氏は八人の雇人の外其村の人々が皆其山を保護する責任を帯びて居ると云ふ事である夫れはど一云ふ譯かと申しますと吉野郡では山の保護税とも云ふ可き一種の課税あり夫れは木を伐るときは地元町村に山出し税を収めさせる法があるので百圓の山を賣れば五圓宛つ買主より町村役場へ収めさせる云ふ事にあり居るので其町村の村税を補ふて行くのであるが故に其町村一般のものには自分のものと同じく保護の任がある譯になつておりますのみならず川上村の如きは凡て土倉氏の所有山林で深き山場所であるが故に固より耕作地等ほととも土地の人で食する丈の在り爲めに皆山の仕事斗りして居るから自然林業家の小作人同様に村民があつて居るのであります

大瀧は戸數百戸斗りありますが夫れで耕作地は僅かに九町貳反歩しか在り云ふ譯であります故に従つて宅地等も高い一坪拾圓位も致すり一である夫れから此の村は矢張吉野川に沿つて居る此の様を譯であるから耕作を以て暮す事は出来まいでありませんか、故に林業家たる土倉氏の爲めに皆安樂に仕事をして居るので母親の様に能くなづんで居るものであります、山林の利の大きなると如斯であります、又如斯深山の處あるにも不均木材を出す方法は能く設備せられてあるので棧橋を拵へて谷から谷へ行く事にかつて居るので一人で五本位は橋に乗せて運搬なす事が出来るのであります、又山の峯で截つて丸太の儘落して筏にくんで吉野川を下けると云ふ便があるのも非常に好都合の處で御座ります、私共の思ふには此の土倉氏の山林も吉野川に沿つてあらすんば如何に立派に成長しても到底今日の如き結構の利益を保つ事が出来ん事と思ふ、猶又此の村では木材切出しに就て百分の五の課税をささしむる筈なるより町村役場は吉野川に出て居つて流がし來る木に對して必ずコックイを打つて出すものであるから一人も只、下げると云ふ事が出来ん爲に賊か這入つて仕事をする様な事は出来ぬので實に此の地方の林は天か保護をして居る造林であろ一と思ひます而して此の吉野の山が如何にも能く成木するから試みに其落葉の堆積するを剗ねて見ますれば矢張赤土であつて我が地方の山と同一である様に思ひます又山番人の話によれば盛冬は積雪貳尺に至るとの事であり左れば信州にても落葉松と許りを云はず東向北向の山にて、やわらかき土ならば精々杉又は檜等を植付けけるは宜ろしかろ一と思ひます殊に一言致したきは傾斜の甚だしき處には將來の禿山を拵る様に憂慮致しますから勉めて落葉松は植へぬ様に致し度き者であります此の吉野郡には上市村に北村又左衛門氏の林業家あり土倉氏の話によれば全氏

の森林を評價せば日本銀行の資本金に尙超過すべしとの事でありました、斯く大なる林業家は其
 数少かるべきも試みに吉野全郡の町村歳入總額金貳拾萬參千四拾四圓の内四萬九百六圓を材木
 輸出税として収入し得らるべき豫算決定との事を申述べますれば略ぼ林業の盛なる度合と該郡に
 山林の収入は稍々御推算の出来る事と存じます
 吾長野縣に於ても幸ひに山林會を活動せしめ能く其地味を檢し其地味に適切なる樹種を植へしな
 らば山野自然に治まり山が治まれば土砂等の耕地に押入する事もありませんし従つて吉野山に耻
 ぢざる林相を見る事の難からざるを思ひます依て益々此の山林會が働いて一般の人々をして山の
 愛すべきを知らしめおぼ盜伐者や野火を放つの惡漢者もなき様になります事と信じます、諸君に
 は倍々山林會の盛大を期せらるゝと共に林業は實に富國の基たる事を記憶し斯業の發達を企圖せ
 られん事を切望致します

博 覽 會 視 察 談

本縣博覽會視察員本會幹事

丸 山 彌 一 郎

此處は博覽會視察談として演題を掲げて置きました故に聊か博覽會の所見に就て申し上げる筈
 でありましたが只今本會に臨んで見ますれば既に本多博士其他の學士若くは静岡縣の金原明善翁
 の御話等凡て有益なる學說若くは實驗談かある様子であります故私共の様を博覽會で視察致す
 程の頭腦を持たぬ者が諸君に向つて博覽會の所見を述べました處格別有益の事ではあからしと思
 ひ升只今同行者の西澤君が幸ひ丁寧親切に熱心に視察せられた事柄の二三を先刻來より御話にあ

りましたから私が又改めて申し上げる筈もないのでありますが一寸と摘んで申しますれば第五回
 の博覽會の林業館で其林業館にあつた處の種目は二萬有余品でありまして其二萬有余品ありまし
 たる中本縣はごしであつたかと申しますと信州の出品点数甚だ尠く寥々として曉の星を見るの感
 ありて又其品質にも太いに恥づべき次第にて嘆息の外ないので御座ります長野縣の出品は何故に
 微々として振るはざるか實に驚かすんばあるべからざる次第であります諸君も御承知の通り長野
 縣は民有山林に於て廿一萬有余りの町歩を有し又官有に於て廿八萬有余の町歩があつて總計五十
 萬に及ぶ町歩を所有し居る長野縣に於て林業に關して是れへ自分の推測に外ならん事ではありま
 すか好成績でなかつたので大ひに恥づべき事柄であると思ひます幸ひ本縣に於ても追々林業思
 想の發達を計り是れを獎勵する機關も夫れ／＼備はりつゝある今日の場合でありますか故に諸君
 と共に努力罷勉して願くは此山林をして所謂晝猶暗く鬱蒼たらしめられんことを希望致すもので
 あります聊か所見の一般を述べて御參考に供するものであります

殖 林 實 驗 談

静岡縣林業大家

金

原

明

善

私は金原明善であります實は鈴木君がふと私の處へこられてこゝ云ふ事が長野にあつてゐるとして
 會員だから出て行くから私はなんにも山の様子は知らんから私とくもにいつて何にか話をしてく
 れと申され私は最早御覽の通りの年輩にて天保錢であつて天保三年生れで當時の事は一向分らん
 極らん人間であります御話をするにもとゞすれば能い分らんもので甚だ恥入つて辞しましたが

是非と云ふ事で夫れでは兎も角も出ませうと云ふ事で御伺ひを致し御席の方を拜見せんと致しましたが袴がぬい夫れでも御免を蒙りて出ましたが何にを御話し致してよいか一向分らん人間であります且又素養もなく只昔の御釋迦様と孔子様の外に世界にゑらい人はおれと思ふて居るので天下とか國家とか大きなことを云ふても方角が付かんののであります私も其方角の付かん人間であります自分は思ふ事は必ずやる其代りに馬車馬の様に側見せんで一直線にやるのであります必ず人に負けは致しません山を殖へた事に付て順序的に御話する事は出来ません只孔子や釋迦の説を聴きかじんだ計也其積りで聞いて貰ひたい

私は齒があくて皆入齒であるから言葉が分らんかも知れんが御問ひにあれば幾らも申し上げますから遠慮なく願ひ升私は實にヒョクナ人間で自分で自分を驚かせ又恐れしむることがあるのであります凡て私の御話は順序があい此に殖林の實驗談として掲げてありますか是れでは困まる只私は生れてからは是迄人にあつた來歴をさらりと申し上げる事に致します

徳川代官の支配地より中央旗本に轉じて人とあつた後を考へまするに人間に生れたらばご一して一度は死あふければありませんから何にか皆んあゝの爲めにある事をして死にたいと云ふ事を考へてうころの本を讀んだ處の天下とか國家と云ふ事はばかりで別に仕方がない何にか國の爲めに盡して死にたいと云ふ頭腦で常に居りましたる處天龍川が度々洪水して仕方がないから是れを一ツ治めよとして御維新前熱心にやりました處其頃の上の役人に叱られて貴様百姓に生れて何にをするのであるかと云ふて叱られ御維新となり慶應三年に太政官の布告により是非とも八釜間敷い天龍川をど一かせんければならん事とあり如何なる日でも忘るゝ事がなく熱心に従事せしも仲々

思ふ様にゆかず其中に「オランダから「リンドー」と云ふ人がきて川の話をし色々あせしも土地のものは更に考へすに山の木を無暗に截り茶を殖へたりするが爲めにど一も私一人では思ふ様に行かんぞ一しよ一かと一生懸命に川浚らいを八釜敷く云ふてもど一も自由に行かん一生懸命に川の方へ骨を折るいくら骨を折ても仲々うまく行かん其の中に家の財産も無茶苦茶にあり貸金及小作金迄ど一あつた事が更に分らず依而此儘の時はおぼはちとらずに終らんと考ました兼て公言致し川の事成功おきは残念であるから残りの財産凡てを賣り拂ひ川一点張にあつて一生懸命に従事致しますと明治十七年頃になり初めて川の方が見込が付いたので其當時の縣令奈良原繁が川の方は一切己れに任せろ政府から金を出してやるからと川の方は政府に任せると云ふ事にあつたので明治十七年に至り初めて川の方は測量が出来て見込が付いたのであります夫れから明治十八年から今度は山の方の事業であると決心し山へ這入つて致した處が矢張川と同じく仲々六づかしいと一も此山を盛んにならしむるにはど一しても大勢の力を藉りなければならぬ夫れから何にを作るかと申しますと苗木を作つたので其價を半價にして賣つたのであると一も妙なものでも人ご云ふものは僅か苗木を半價に賣りだしたるより夫れを買入れ山に殖へる様になつて殖へると自然に勢力が付へて來たので遂に天龍川の水源が能くあつたのであります然るに近隣の岐阜では水害で困る岐阜へ來てくれと云ふ其頃木曾川始諸川へ對し同縣下に山田省三郎と申大熱心人有之漸く川も治り候處不幸にも廿四年に至り大震災を蒙りて山々は崩潰し殊に又堤防無茶苦茶となり候得共是れも又大金を以漸々改良其後衆議院議員中水防大熱心の湯本義憲君同地の縣知事と相成右赴任前明善水利の相談請け答曰洪水の本は殖林にあり岐阜人は頭腦に川計此末は殖林の岐阜

人頭に仕込方可然先大藏次官田尻君と共に可談と其夜行で其事談す同君同感山治るときは川は自然に治ると申と明善の持論あり私は初めから一思ふて居るので日本は山を以て骨とあし川を以て筋とあし夫れで健康にあるとあらんのは遣り方が悪るいからである早く山から先きに治めて川に及ぼさなければ皮もつかん肉も出来ないのであります猶私は考ひたのであります人は皆東京々々と云ふて皆東京へ集まり一般の大名衆も東京にあつまり従つて自然金も東京に集つて居るからごもこも（東京は首府）金が天窓の方にはかり集つては卒中病の起るは當然あり手足とあす處の國々は冷てあふいと考ひ是れは一つ東京に出て金を取つて来ては山に金をふり蒔かざればいけん事と思ひ其後は屢々東京へ出ては金を取り取つては山へ振りまいて無茶苦茶にあしたのであるからご一か是れは山から先きにやつて貰ひたいのであります田尻君の云ふには君の云ふ通りて宜しいからやれと云ふと湯本君は山林技師備入の事を述る其夜直ちに山林博士志賀泰山に計る幸に糸幸三郎を得て湯本知事は熱心に林業の端緒を開き縣會に向て五拾萬圓を以て廿ヶ年間繼續林業補助金に宛つへく旨出し幸して其議ある知事如斯熱心にも不抱岐阜縣内第一の山林崩潰地の根尾谷村は不應彼是の間知事の交代三度然處四人目知事川路利恭赴任相成縣會物議生し明善を呼て縣會議員に向て山林植付の得失懇と説破す故に議一變し知事根尾谷植林成功の保証あらば改て可決すへしと即知事其任に當る旨答て可決す然る處右根尾谷不應故を以て明善同所へ度と出張し種と成る方面を説くも不動依て明善苗木と人足引て右谷に入り先西板谷と中字に入酒食振舞植林の事を説く酒既に酣にも相成候頃末席に聲あり曰御前は静岡縣人にて苗木人足を持參し共有山へ植て縣知事と後に取去るからん云と依て明善最初川々に盡力し又縣會議員に向て説明し其可決に

依て植林する上は更に諸君心配をし誠に明善根尾谷植林引請万一にも不行去る時は對知事並縣會議員面目失すると万圓にも難替依て酒を振舞諸君に頼むありと申出候處氷解之色顯し左迄植林致度候は、皆、植て可遣と一決し是則岐阜縣植林之着手也然るに三十六年に至り候ては同縣下の植林惣町にては一ヶ年三千町程植え込候迄に相進申候又静岡の天龍川へ苗木を半價で賣つたのか原因となつたので頗るチョウウシ付て遂に山に禿けた處があい様の風にあつて來たので蒼々と殖つたのである御當所は廣い山が澤山ある様に見えますが失禮ではありますか是丈の山が元からあるから何にとも御思ひてあかろ一か是れを買ふと云ふ心持になつたらご一でありますか決して諸君は遊ばして置かるゝものではあかろ一と考ひます凡て人情と云ふものは妙なもの家の娘か朝寝をして居つた處が夫れ程苦にも感せんか万一下女が朝寝をして居つたらご一でありますか必ず給金を出して置くのであると云ふて御叱りになりませう家の娘には給金を出さんから何んとも思はかいと同じ事で山は先祖から傳はつて持て居るから何んとも思はんか是れを錢を出して買つたものあらご一でありますか決して只遊ばして置かれん事と存じます若し遊ばして置かるれば私は其大膽に驚くものである静岡では氣違ひじみた話でありますか今度富士へ木を殖へたのであります私が或る人に向ひ今度は富士へ殖林するかと申しました處富士へご一して殖へるかと聞きましたたかご一して殖へるか知らんか私は殖へると云ふて既に殖へ初めましたけれども共有地借受けての殖林従是は御料地拜借の外あし殊に縣には林業係もあし只民間にて植林するのみ漸く此度富士植林に付昨年初めて二千百七十圓縣會から補助してくれて三十七年より年々金參千圓宛五ヶ年の繼續事業にあつて居ります其初め私か少し殖へたから夫れを手本として縣廳てやれと申しますと

縣廳では關係せんと云ふ勸業費があるではないかと申しますと夫れもかいと申します是れも矢張爺か働けは息子が遊ぶと伺し事て仲々うまく参らんものであります今日御當縣へ伺つて見ますれば仲々山林會が盛なもので實に感服の外ありません私は昨年三月静岡縣に於て地方山林會があるこの事て態々東京から歸縣致して見ました處か知人遠州より居其用事尋ると静岡縣山林會の興廢に付被呼出候由甚驚愕其旨早知事書記官等尋候處右様の會の有る事は知らんと云ふより是れはぞししたてあると思ふて居ると其の筈であります知事度との交代にて會長の引繼をせんから更に分らんのてあると云ふ事が分り然らば此末ぞしするかと申しますと席上皆同音に君が會長にかれと云ふより然らば私は會長にあるから直ぐ會員を呼べと申しますと費用かかいと申しますから費用は私が出すからと云ふて則其月末三十日に會員を呼んで時の副會長議長とあり會議開候處滿場一致を以て會長を明善被致候て一切の權限會長に一任と相成候副會長以下は從前之逋依て即夜發にて早々模範林を富士山麓に設置の事に相成直ぐに富士郡長に對して殖林のと計りますと同感にて共有地借り受け明善の自費を以て先六町歩余の模範林植付けました大分其成績の宜敷より三十五年の縣會にて二千百餘圓の補助金を請け則三十六年春五十町歩以上縣有財産の積にて植林し一方は右模範林の植増あし外に豆州田方郡内へ三町歩余の模範林を設置す縣會又兩年の成績を見て縣會から五ヶ年の繼續事業として金圓補助の事と相成候得共大事業に付一方には寄附金の募集を致しましたが漸く金が廿圓位しか集まらんで無據兩度に金千圓程自費を出しました然るに御縣へ來で見ますれば何千圓と云ふ寄附金で實に感服の外ないのであります此勢にて御やりになりましたならば余程能く事業が進ませう私も富士山の事業も此の二三年の中には是非將來

の基礎を建てる考へでありますかにしる林業と云ふ仕事は誠に張合のある仕事で木は殖へれば直ぐ太くある太くありさいすれば世の爲めにあるのである自分の處ではあるか静岡當りも私があければ遅くても仕方がない處となつたのであります氣狂ひの様を私があつた爲めぞしかこい今日盛にかつたのである又自分も是れが爲めには自分の財産を六万も七万も出して家迄出してろし事業の緒に付かしたためたのであります總体では七万余も出しましたろぞししても先程私が申しました通り日本全國は山から先きに治めて夫れから川に及さんければらんものと思ひます併し山は結構ではあります夫れが禿けた山では致方ありません山に木を殖へれば木が葉を落して山を作るのであります山が肥ればすん／＼年々木は太くなり山は益々肥へて行きますが禿げさせて置けば益々山は瘠せて行きます一方山に木を殖へれば丁度子に孫に玄孫と云ふ風に山がふとるので山程面白い者はあります實に山は手を付ける直ぐ金を落して、行く先／＼迄も金を落して参ります木の通つた處は必ず金を落します誠に正直のものであります私は實に是れ程結構のものはかいと考ひますぞしか諸君も禿け山を拵はすぞん／＼木を殖へて貰へたい五年或は十年も立ちますと實に立派なものになるので又面白いものであります私は何に事も是れは一ツやつて見なければならぬ事業であるとして夫れに向ひますれば更に何事も思はんで一生懸命に其業に従ふので衣食住等の念もなんにもかくなる兎角日本人は赤髯に出會するとさあ天窓をひく／＼する(此時辨士感慨に禁へずして落涙二三分間)

赤髯に對し能く世間の人は口には何んとか、かんとか申しますか万世一系であるとか日本の國であるとか云ふて口に意張つた處がなんになりますか夫れよりは國民はある丈の智識を出し力を

出して凡ての事業を發達せしめていつたからば此の結構を國暖かい國の人間か大方白けはせんと思ふ金持にちるとゆるんでいけなにか日本の國の人は遊はん又山も遊はさんと云ふ事に致したからば能かろーと思ふ是れを小さく云へは一家の中の儉約であるぞーか皆さん一生懸命に働いてゐると赤髯の鼻を捻つてくるゝ様を人を出したいと思ひます私は學識もかく何んにもなく御當地へ參り失禮を申し上げましたかぞーか海外に向つて此の觀念を持續して行かると様な人を一人でも作りたいたと云ふ考へより恥もなんにも無頓着に失禮を申し上げました先程知事さんに五分間計り御目に懸つて知事の御考へを伺へましたか仲々知事さんは林業に就て御熱心の方でありますからこー云ふ知事さんのある其間に於て山を拵へなければなりません嫌らしいな知事の時ではいけんあんな私の様なものでも役に立つ事ならこいとさへ申されゝば直ぐ來ます山の事なら及ばずあがら御加勢を致す考へであります誠に下らん事を申し上げて御耳を汚がしました又御縁がありましたならば御目に懸る事もありませうぞー此の山の事は一般に付て御盡力を願升木を殖へるにも巻煙草一本宛を儉約致しますれば信州の總人數では余程能く殖はりますから私は今一滴の酒を吞まず又煙草も更に吞みません又私は昨日はぞーした事か二等汽車も乗りましたが今日迄つい二等汽車へ乗り込んだ事がありませんぞうか一人でも私の様なものゝ仲間を作りううして赤髯の鼻を少しでも曲げたい考へであります(辨士再び落涙す)先達つて静岡の縣會議員の集會の席に於て誠に愚の御話を致しました事があります夫れはごんお事であるかどの御仰せがございませうか夫れは輕業師の御話であります輕業師は鳥渡大きな皿を竹の棒にて自由自在に上げたり下げたり又裏ろに廻はして使ひますあれを今日の學理の上から申しましたらば博士や學士は仲々面倒の事

を申しませう夫れつり合がこうとかあーとか然るに輕業師は之れを學理に考へず習慣によつて平氣でやつて居る私も矢張其通りて一生懸命に遣り遂げたものだから仲々六ツケしいと人は云つてもろーは思はんごんお事でも一生懸命にやつてゆけはいけん事はるかおろーと思ふ會て私か三州豊川稻荷へ孫を連れて參つた事がありました參つて見ると寄附金が大變のものである一万五百圓の寄附者あり其外仲々大變の寄附金であります又一巡りして見ますと杉か澤山境内に殖へてゐるので孫は臍を潰して居る其時に私は孫に能く云へ聞せた事がある貴様能く考へて見ろ狐てさへも是丈の仕事をするではいか人間は万物の靈と口に云へながら狐に負ける様では仕方かあい豊川稻荷は狐であると云ふて大喝致しました事がありました人間か獸に負ける様では實に空々寂々であんごも申し様かありません私の考へるにはごんお事でも必ずやると云ふ決心を以て當ればいけ様と思ふ口に計り日本魂とかあんどか云ふても夫れは何んにもあらん必ず行かへに現はさぶれは面白くあへぞーか皆さんも此心を以て山林に従事せられん事を望みます甚だ失禮の事はかり申し上げました

信州の地質を論じて森林經營の方法に及ぶ

本會學藝委員 保 科 百 助

私は保科であります本日當會に於てあにか演説を致す様にと云ふ御話で御座りましたから出席し又演説を致す考へて演題は本縣の地勢地質を論じて林業に及ぶと云ふ演題であります私の外に有名なる大先生方がありますから是れは止めにした方が演説家の徳義と思ひますから私は止めに

致します私杯は余り徳義は重んぜん方ではありますかこう云ふ場合には徳義を重ずる方がよかろ
 ーと思ふ孰れ其中にいつれかの新聞紙を拜借して意見を述べよーと思ひます茲にもあります演
 題未定と云ふ様を下らん演題は出さん方が宜かろーと思ふ腹案のあいのは出んから矢張演題等も
 出さん方が能い是れは人の事でありますが是れにて御免を蒙ります

(保科學藝委員か時間の爲め講演を中止せられたるは甚だ遺憾かり仍て本會は本題の下に論文
 の起草方を委嘱し其快諾を得たり追て成稿の上は他の方法により之を公にせんとす讀者乞ふ
 之を諒せよ、本會幹事)

山 林 雜 感

王子製紙會社専務取締役 鈴木 梅 四 郎

私は山林雜感下手な詩の題の様を演題を掲げましたが簡單に申し上ぐる考ひて御座ります
 私は全体此の山林事業に付ては更に學問か又山林の仕事に付て實際の經驗もあゝ全く門外漢
 に過ぎんものであります乍併昨年来私が從事致しまする會社の仕事か山林の仕事に關係して居る
 が爲めに少しく山林の事に付て感した事がある即ち夫を御話するので勿論順序もなく脈絡もない
 只信州の山林につきて感したものを其感した儘二三を擧げて申し述べよーと思ひます

私が信州の山林の事に付て一番に感した其一はどー云ふ事であるかと申しますれば私の從事致し
 て居る會社は洋紙の製造であります遠州には中部、氣田の二つの工場があります二箇所共
 木材を原料として紙を捲へるのであります氣田工場は日本に於ける木材原料の元祖製紙工場で

ありまして營業の成績は大層都合が能く参りました爲めに先年亞米利加へ技師を派し更に大いに
 新たなる機械を輸入して大仕懸けで仕事を致して居りますのが即ち中部工場であります
 斯様に木材を原料にして紙を捲くので其關係から王子製紙會社は自ら山を買つて木を切り現に山
 林に属する事業をやつて居るのであります王子製紙會社にて此仕事に使ふ人夫は千何百人と云ふ
 多數の人で會社が使ふ所の木材一年には九方から十方尺の大層なる材木を伐り出すのでありま
 す夫れで此仕事の重なる人にはどこの人々であるかと申しますと木會の御料林で多年養はれた
 人即ち私の生れた信州の人か重もに山の伐り出し仕事をして居るので會社の當局者から聞く所
 據ると土佐、岐阜或は紀州其他諸國の人を使つて見るが木の伐り出し仕事は信州の木會の人夫か
 一番上手であると云ふ事であります

夫れで私は信州人であるが故に國の事に就て何にかよい事を聞くと喜ぶし惡い事のあれは残念
 に思ふものであります故に木會の人夫か木の伐り出し方に就ては一番能い人足であると云ふ事を
 聞へた時があーかど國自慢に喜んだ時で即ち信州の山林の事に就て一番最初に感した觀念で
 あります

夫れから第二の觀念は私の會社か遠州の各所にも信州下伊那郡遠山地方にも山林を持つて居るの
 て自分か會社の事業を引受けたに付て諸所の所有山林を廻はり其狀況を視察致しました其當時に
 於て感した事であります夫れは何にかと云ふと静岡縣と長野縣との境が山林の状態で以て分かる
 と云ふ事である、あせかと申しますと静岡縣下遠州、駿州では到る處立派に山林の手入が行届い
 てあるので孰れも杉若くは檜か鬱々蒼々と繁茂して居るので其繁茂せぬ處は今や丁寧な造林を爲

しつとある所であり、然るに長野縣下の境にあると丸めて反對で造林は殆んど見度も見えず自然に育ちたる良木は伐り倒して跡は其儘にあつて居るので雑木や雑草が生へて居ると云ふ有様で自然と信州と遠州、駿州とは其山林一方は蒼々として造林せられ一方は荒廢して居るので誰れが見ても直ぐ其境界が分ります。ここで私は先には大變に木會の人間が山仕事をあす上に於て好評でありましたから國自慢の爲め心竊かに喜ひたるものが此有様を見て今度は大に失望したのであります。木を伐る方は信州人は上手で植へる方即ち山を拵へると云ふ事は下手許りか全く其觀念がよいのか知んといやち或感覺を生したのであります。そこで初めて信州の山林の事に付て意を注ぐ様にありまして少しく暇があると言ふ話を聞くと言ふ様にあつたので段々聞て見るとごもいよ／＼面白くさいご／＼として遠州駿州の様にしたいものだと思ふ所から機會さへあれば門外漢ながら山林の事を申す様にあり現に私は此頃御當地へ參つて自分の國であるから縣の當局者に其話を致しました處が當局者の云はれるには、いや其事から當縣には既に山林會があつてこゝ云ふ事にかつて居ると云ふ事で色々の話を承りましたから私も大いに其趣意を賛成し自分は今日東京に居りますが長野縣の山林會に就ては出來得る限りは盡力致したいと思ふ觀念を起したのであります。今日では信州の山は捨て置けんと云ふ感じが起つたのであります。夫れから私は當國のものでありながら能く當國の様子は知りませんが信州に於て第一の産物と申しましたらば養蠶製絲で御座りませう此の信州の製絲業は林業に大關係があるので前途憂ふ可き事であらうと思ひます私は信州にて一番製絲業が盛んである諏訪には知己か居るより諏訪の模様は少し分つて居りますか仲々製絲業は大層のもので一年に一万七千捆の生糸が出來るうゝで

あります。ここで是丈の生糸を製造するに要する薪材はどの位であるかと云ふて製絲家の調べを聞きます。生糸一捆に薪材は價格にして十六圓を費し之れを目方にする。凡生木で千貫目であるうでずして見ますると一万七千捆を製造するにどの位の薪材を要するか又どの位の代金を支拂ふかと申しますと實に金よすれば廿七八萬圓を薪材に費消するのである。處で十數年前迄は凡て諏訪の山で幾等も薪材が澤山あつて間に合つたが爲めに其直段も安く一捆につき僅か八圓に過ぎなかつた然るに年々歳々製絲業は進み進むに従つて薪材を伐る伐つた其後は其儘禿山として放つて置きし爲め近年に於ては大ひに薪材が欠乏して參り今日では諏訪の製絲業が用ふる薪材の二分は石炭を焚き八分は薪材あるに其八分の三分は諏訪の山で供給されるも其他は皆遠い木曾御料林に近き横川山邊より持つて來て焚くと云ふ様を事て製絲家は色々製絲をする上に付て困難を感じて居る諏訪は勝れたる工女を得る事が一番困難であるうゝであります。が今は薪材を得るの困難が其次であると云ふ事でありませう。

如斯遠い所より薪材を取り又遠方より汽車にて運びたる石炭を焚くと云ふ次第であります。から仲々安くはつかんので薪材は一坪五圓との事である。即ち一捆製造するに十六圓懸るゝのて是れが先年の如く凡て薪材か諏訪に於て供給せられたらば半價で済むのであります。薪材か今日の如く高價であれば横濱へ生糸を出しても賣る上に於て矢張品物が高價にかるのであります。是れか十年前てあれば八月で済みしものか今日は一捆に付て十六圓かゝる商買上競争の今日であるから一捆に付て八圓高く賣ると云ふ事は仲々容易の事ではありませぬ。即ち諏訪の製絲家の薪材を以前の如く安く買ふものとするれば横濱市場は外の國の製絲と比較して八圓丈競争力を増し得ると云ふのに

今日は反對に八圓丈競争力を減じて居るので考へて見ますれば是れはど一しても諏訪の製絲業の上に出る處は凡て諏訪の如くであらうと思ひます尤も諏訪を始めとして近所まで鐵道の出來て居る地方は其燃料一切「アプトシキ」鐵道を越へて磐城産又は北海道産の石炭を輸入する様になるかも知れぬ又石炭の外に重油の方が便利であると云ふて越後より重油を輸入せらるゝに至るかも知れぬ薪材が全く盡きたりとして生糸製造には差支へはあるまいが唯燃料の値段が今日より益々高くなるのであるから信州の製絲業者は遂に市場に競争の余地が少くあるとは免れないとであります併ながら是等は鐵道に接近した處であるから高くても燃料を得らるゝとした處が山や谷の奥の偏僻の地方に於てはど一しても製絲家は其の燃料を山や谷の薪材によらなければ外に仕様が無いのであります信州第一の事業の上に於て薪材の供給と云ふ事は實に忽かせにすることが出來ぬと云ふ考へを以て居ります是れは勿論私共がう一感ずるより先に茲に御出に於る製絲家の諸君は特に山林の急務と云ふ事を感じ得せられて居ると思ひます

夫れから次ぎは此の山林の仕事と云ふものは大變な地方を露はすと云ふ感じを起したのであります夫れは仕事の上から自分が感じたので先刻金原君が御話にあつた所謂山林の仕事は大變に金を至る處に落ちて居るのであります私の會社とは中部工場丈にても材木代を一ヶ年廿萬圓も拂ふのであるがうこで廿萬圓の材木代を分拆して見ると色々にあるので伊那郡遠山の山に立つて居る立木の代價は僅か尺一一本拾五錢廿錢のものであるのである然るに其木は杣夫の手に懸けて伐り倒され又は人夫の手に懸て山落にし川狩りにして筏にくみ工場迄來る間には金が大變に懸つて一

本拾五錢か廿錢のものが尺一にして中部工場につく時分は一本二圓已上のものであるから其木の通つた處の地方は自然と需ふのであります即ち私共の會社では中部工場の材木代が約廿萬圓ある其廿萬圓の大部分は皆人夫の勞力賃にあるので直接間接に其地方を露すのであります又前にお話した諏訪の如きも一年に廿餘萬圓の薪材を要すると云ふと其大部分は矢張薪材切出しの山林から諏訪に至る迄の地方を露すので私等の中部工場に於けるが如く多數の人々に職業を與へ金を儲けさせるのであるから山林の仕事は人々に職業を與ふる点に於ても仲々ゆるかさに出來ん事業であります、承はる處によれば長野縣に於ては縣會議場に山林事業に就て何か大々的の議案が出たと云ふ事でありすがどうか長野縣の山林事業に付ては他縣に負けん様に大ひに今後發達し得る様を方法を決議して頂きたいと思ひます殊更に當山林會會員諸君に向つては熱心と勉強とによつて一日も早く本縣の山林を静岡縣の山林の如く立派のものにせらるゝ様御盡力あらんとを希望致すものであります

信州の國是と林業

農科大學教授林學博士ドクトル 本 多 靜 六

私は只今過分の御紹介を戴きました本多靜六で御座ります今日本席に置きまして皆さんの前に一場の御話を申上ぐる事は大いに私の名譽を致す次第で御座ります去りながら此林業とか農業とか云ふ如き實業に關するお話は余程能く其地方の地理人情歴史風俗等を充分に取調べ吞込んだ上でなければ完全な御話は出來ぬものであります然るに私は本縣に參りました事文は度々ありました

が僅か二三日の旅行で未だ能く本縣の事情を盡しませんから或は今日私か申し上げます事が其適切を欠きはせんかと恐るゝ次第であります。が只々私は此の信濃國の山容水態に徴し是れを廣く諸外國の實例と古今の學理とに照しまして此の信州に於ける現在の狀態が實に悲む可き憂ふ可きものであると云ふ事を發見致しましたし一度は又此の長野縣の將來に就て大に喜ぶ可く祝す可きものがある。と云ふ事を發見致しまして而して其悲む可き憂ふ可き事柄も此信州に於ける國是即殊に殖産經濟上に於ける大方針の立て方によつて其憂ふ可く悲む可き事もまた大に喜ぶ可く祝す可き事柄にありませうと出來るものであると云ふ事に氣が付きましてから今日は單に林學者のみの資格でなく私か聊か歐羅巴に於て修業しました國家經濟學者と云ふ資格の上から今日茲に掲げました信州の國是と林業と云ふ事に付て私の氣付ましたとを述べ謹して賢明なる長野縣人士の御參考に供したいと思ひます。

乍併私は其前提として先づ信州地籍の大部分を占むる處の山林原野の性質効用を明かにする必要を認めます諸君が試に諸君が賣卜者に人相を見て貰ふに際し一本の指を出した丈では如何に立派な天眼鏡を出して見ても仲々容易に其人の運勢を判斷する事の出來ません然るに若し四本の指を出せば一本の指位もくとも必ず其人の運命を判斷してくるのであります。それと全しく今此の長野縣の運勢を判斷して國是を定めんとするには矢張長野縣の大部を占むる所の山林原野の狀況を調べて見なければなりません。長野縣の地籍は全体で百七十万町歩ある。其中山林原野は百四十六万町歩即全地面の八割七分に當つて居る故に此全地積を五本の指に譬ふれば山林原野は四本の指に相當し残り住宅地や田畑は僅か十七万九千町歩しかあらず。全体に對して云へば僅か一割

に過ぎないから五本の指の一本にも當らん一本處ではない指の半分にしか過ぎないのである。私か此の長野縣の林相を見て本縣將來の運命を支配する殖産經濟上の大方針を判斷せんと欲するに當り先づ山林原野の性質効用を明かにせんと欲する所以のもの實に止むを得ざるに出する者であります。

抑も山林の性質は大に農業とか工業とか云ふ如き普通一般の經濟事業と其性質を異にし山林が荒れば材木に不足するとか家を造るに困ると云ふ計りでなく若し山が荒れば米も取れなくなり麥も取れなくある養蠶も出來なくある其他種々の工業等も皆衰微を來し一方には其地方氣候の調和を破り不健康にして人が住めぬ様な國になつて終りには其國が滅亡に歸すると云ふ頗る恐るべき結果を持ち來すものである。何故に山林が荒れば米や麥が取れなくあるかと申しますと山林が荒れると雨が降れば大水が出て天氣が續けば旱魃にかり加ふるに氣候の調和を破り時からざるに霜が降ると云ふ事があるので養蠶も不出來にるのであります。

何故に雨が降れば水が出るかと申しますと山に木がはいからである山に木があると降つた雨の二割五分は木の枝葉に止まつて落ちず其儘蒸發するので一石降つても二斗五升は木の枝葉に於てあつかつて仕舞へ残りの七斗五升も葉から枝、枝から幹と云ふ様にうろ／＼つたわつて地上に落ちて地上には苔が澤山ありますから落葉、苔に吸ひ込まれて一時には流れんと云ふ事にあるのであります。吾々が實際の試験によると山の松葉即ち針葉樹の落葉は其重量の五倍の水を含む即ち一貫目の松葉があれば五貫目の水を含んで止めることが出来る。枹こらぐみ、櫟かづき等の雜木の葉は七倍の水を含み苔にあつては十倍即ち一貫目に對して十貫目の水を含むことが出来る。斯様に支へて急に水を落さんか

ら山林が繁てさいおれば大雨が降つても急に水が出でず又其水は落葉や苔に浸み后ちに徐々に浸み出すのであるから決して水の濁る様な事がない然るに若し山が禿げて裸体であつたならば降つた雨の全部が途中で支ふるものがあから直に全部地上に落ちて侵み込ますにすぐ一時に流れ出すから水は濁り地層は滑り遂に山崩れを起して石や砂利を流かすが爲めに川は底が高くなり雨が降れば今度は洪水となるので山林を裸体にして置けば洪水の起ると云ふ事は當り前の事で山が荒れて爲めに蒙る處の水害は仲々大變のもので最近十年の間に蒙つた日本全國に於ける損害を概算致して見ますと實に一年に四千六百四十万圓之を五分利とし元金に換算すれば九億三千万圓からの損害を蒙つて居るので随分巨額の損害であります日本は日清戦争役に於て三億萬圓の償金を取りましたが一方には山を荒した爲め九億萬圓の借金を背負つたと同一である信州は海面土高い國だから元來洪水杯はあつてもよいのであるのに調べて見ますと仲々大變のものであります統計書の上から見ると廿九年以來三ヶ年に亘る損失は二千二百万圓に達して居る信州の山を今日の如く荒して置けば洪水の損害は誠に殘念ながら今日より増すとも減すると云ふ事があ例へば年々百十數万圓の土木費を以て堤防を一寸築へた處が川底が一尺宛つても高くなるのであるからして到底山林の方を直さんければ洪水の害を防ぐ事が出来ません

次きは何故に山林が荒れれば早魃の害が起るか申しますと山林が繁茂して居ると雨が降つても其雨が一時に失せないので山に含み置きて天氣の時に徐々に之を流出し谷川の水の盡くると云ふ事があから即ち早魃の虞ひが無くあるのである加るに山林は妙者で雨を度々降らせる處の働を以て居ります即ち全雨量は増すとなく只其雨の適度に分配する處の働を以て居る即ち片照片降

を防ぐの働を以て居る諸君試み御覽なさい夏期に際し山林へ這入つたからば涼しいでありますよ一即ち山林が繁茂して居れば其山は涼しいので温度が低い所が其山の上に水氣を含んで居る處の雲が通ると此の雲が冷いて重くなり雲が下がる下がれば雨とある即ち森林は手を出して雲を塵へて雨を降らせる働を以て居るのであります、かるが故に從來ある處の山が伐られた爲め夕立がこなくなり早魃が多くあつたと云ふ實例は澤山あります

次ぎに何故に山林の荒蕪が養蠶に關係するかと云ふに是れは主として氣候の調和を破るからであります養蠶上には氣候が順當に行くと不順に行くとによつて大變違ふので就中霜の害が甚だしい一朝にして數千町歩桑畑を眞黒にあす事がある本縣に於ても廿九年卅年には霜の爲めの損害が養蠶上三百萬圓に上つた事がある而して此霜の害はご一云ふ時に起るか云ふと晝間暖で夜る急に寒くあるときが最も危険なので夜も晝も寒い時はりでもないが片々急に夜る寒くなると云ふと霜害が強くなる然るに山林が其地方に繁茂して居ると夜る急に寒くあると云ふ働を防ぐ事が出来る夫れはあせかと云ふと夜に至れば林内へ暖かい諸君も御存じの通り乞丐が野宿するにも決して道等では野宿しません必ず木の下で寝るので是れ即ち暖かへ證據である寒暖著しく林の中と外とは違ふのであります晝は彼等は木の下に涼すむ兎に角山林が近傍にあれば晝間は涼しくして夜間は林内より暖かる風を出し温度の差を平均させる處の働を以て居る是れは理屈ばかりでなく實際諸君が森林の近方に桑畑を持たれ居る人は御存じであらませう木が畑の側にあると霜の害を受くる事が少くない之れに反して山が禿け居り且全体の原野が草原であつたからば其霜の害を受くる事が甚だしくなるのであります歐羅巴の學者が研究したる議論を見ると草は葉から水分を蒸

發せしむるので極く冷へやすい山か冷へれば空氣が重くあるより直ちに下方に下て霜とあつて落ちるのであるから草山は霜の害が多いのであります山林が繁茂さいて居れば何時でも晝夜の温度を平均にし又冬は時候を暖かにし夏は涼しくするの働きを以て居るから夏は山林よりよくと涼しき風を出し冬は又森林よりよくと暖かな風を送るので要するに氣候の激變を減する働を以て居るのであります、かるが故に衛生上にも最も有効であるので、猶又松、杉、檜其他の繁茂の土地はオゾンと云ふ藥にあるものがあります此の藥は肺病呼吸器病虛弱病等の藥にあるのである、如斯森林が外へ藥を吐き出す爲め森林の氣候は大變結構なものである此点からして獨逸や佛蘭西に至る所に森林が繁茂して居るより其中央即ち深山幽谷に大きなホテルを築き又は保養園と云ふものを造り一種の病院の様なもの虚弱の人ばかりこへ行つて清淨なる空氣を呼吸して其人の健康を保つ爲めに設けられてある本縣の輕井澤等は余程此の保養園建築に適當なる處であると思ふ初め歐羅巴人が輕井澤へ家を建て初めたのは矢張其本國に於ける保養園の積りでありしに段々と土地のものが山林の木を伐り放しに置き置より當時は以前の如く余り多くの外人は見ゆる様である矢張輕井澤杯へ森林は益々盛にあらしめて保養園の出来る様にせんければあらん所であり、要するに凡て山嶽は必ず木が出来て居る事を要するので木さへ出来て居りさへすれば従つて一般國土保安上に廣大なる利益を興へて其地方の生産力を高める様になる効能があるのである故に山林と云ふ事には余程能く注意せんと其國がある程度迄は進むが再びあと戻りをする事にあります彼の有名なるベルシャの如き非常に文明に進んだ國であつたが山林と云ふ事に注意せんで繁華にあるに任かせて無暗に山林を伐り拂つたが爲めに氣候の調和を被り土地を悪くし水

がかくあつて彼の有名なるバビロンの都杯は東京の三倍もあつた世界第一の都でありましたが今は芒々莫々たる砂原の下にあつて其地方一面沙漠に化したとの事があります又彼の地中海のシ、ロー島の如き伊太利の穀倉と稱せられて小麦が澤山出来た國で地面と氣候の良いに任かせて山の天邊迄一面に開墾したる結果山には粘り氣がなくあり雨が降ればぐく崩壊し天氣あれば早魃をふし今日では川が全く無くなつて一面砂原にあつて人民は政府の保護を受けて皆外へ移住して居るよゝになりました又彼の伊太利南部も森林濫伐の結果大に荒れてチロール洲の耕地の三分の一は皆砂漠にあつて仕舞ました其他希臘、西班牙、葡萄牙等も一時は非常に盛であつたが山林に注意せざりし爲めに今日は皆衰へて貧窮凶とあり果てました反之獨逸、佛蘭西の如き有名なる山林學者が生れて初めから山林はごゝしても繁茂させなければあらんと氣が付いて注意を致しましたから今日では山林の事業のみならず百般の事業駁々として進歩し實に富國強兵の實を擧げ居るのである諸君簡様な實例は決して遠く海外に求むるを要しません近く之を日本に於て認むる事が出来る

諸君現に岡山神戸の山林は如何なる状態でありますか山林に注意せんが爲めに非常に山が荒れて雨が降れば山から忽ちに雨が流れ出すので非常に田畑を荒し年々洪水の害が非常に澤山になり今では折角手馴れし百姓をする事も出来んで或は商人とあり或は海外に出稼し居る様な有様で北海道、濠洲、亞米利加等へ行つて居るものが多いのであります、ろゝして縣では毎年澤山の金を投じて山の崩れん様に石垣を築いて居りますが既に荒れ方が極点に達して居る故に容易に是を回復する事は出来ません是に反して大和の吉野紀州の熊野地方の如きは極く土地が不便であつて仲々

信州の様なものでは、何處へ行くにも草鞋でなければ行けぬ處であります。早くから殖林に
つとめし爲めに今では非常に山林が能く出来て居る一面に杉又は檜が繁茂して居るので非常に立
派な森林にあつて居り、少しでもこの邊の様を山は無い故に吉野の郡から年々三百万圓位宛木材
を輸出するので吉野郡は一千万圓以上又は數百万圓位の身代にあつて居る人が七八人もある様を
處にありて居り、日本中で一番富貴の處にあつて居ります。

是迄申し述べた處は先づ主として森林間接の効用、即ち此の山林が荒廢すれば其森林の働として社會
に及ぼす可き効用が全くある事にあると云ふ理由實例を御話致しました。此外に森林直接の
効用も亦甚だ大なるものがあります。實に此世の生活上木材なるものは無くしてはならないものであ
ります。試みに諸君が踏み居る處の床板諸多を蓋ふ所の天井諸君の周圍にある柱戸窓諸君が腰を懸け
居る椅子其他テーブル等何から何迄皆木材からなる者はあります。まい皆は山林の産物によつて成
つて居るものであります。其他諸君が乗つて来た人力車又は穿て来た下駄或は諸君が日常用ふる處
の膳椀箸楊子簞笥長持等皆は木材によらなければならぬ。ではありませんか。猶極端なる例を上げ
ますれば諸君がオギアアの轆轤を上げて直ぐ使ふ産湯盥を初め諸君がやがて名譽の事業をなし遂げら
れて立派に此の世を辞するの時に這入る所の入物に至る迄皆是れ木材の力によらなければありま
せん。實に吾人は森林の御蔭を欠けば一日も生活が事か出来ぬものである。今日毎日使ふ炭薪丈た
算へてみますると一人尺二本宛とすれば全國五千万人では一億何本と云ふ數になります。其外色
々家を建てるに橋を架けるとか敷へて見ますれば非常にたいしたもの、まかも家を建てるに
か炭薪を使用すると云ふ様を事は社會の進歩に供つて益々需用が余計にあるものである。更に

近年新らしき用途が澤山出来て来ました。例へて見ますれば鐵道の如き維新前迄はあかつたものが
今日では殆んど無い處が無い位なので汽車の箱の如き皆木材を要するので今日迄に日本全國に於
ける客車の數が五千輛もあり又貨車の數が二萬輛もある客車は一箱を造るに尺二にして五拾本の
木材を要し貨車の如きは矢張木材を以て造るのであるか故に大變に木材の用途は廣い。夫れから
又此鐵道は人の目に見へない處に木材を澤山用ゆる夫れは御承知の枕木である。是れは誰れしも氣
が付きませんが大變いるもので丁度一哩我が十四町四十五間の場所へ二千本宛這入つて居る然る
に日本に於ては既に出来上つた鐵道が四千哩程ある。是れに停車場其他の二重の處即ち復線迄
を算用すると實に六千哩程ある。一とすると現在に於て使つてある處の鐵道枕木は一千二百万本
である。今假りに是を一本七尺の長さのものを眞直に延ばしますと六千五百里の長さにあるので地
球を二つ刺すことが出来、ます地球は三千二百五十里である故に二つ刺す事が出来るのである。處が
此澤山の枕木は平均五年置きに取り替へなければならぬ。もので五年置き取り替へることに致し
ますれば年々二百四十万本宛を要す。而して是れへ今現在ある處の鐵道枕木に對して申し上げまし
たもので今やつて居る處の凡ての鐵道が出来上りますれば此の二倍を要するので年々四百八十万
本と云ふものを要するのである。處が現在の処でさへも枕木に不足をして居り内地の鐵道枕木でさ
へも不足を來し居るに隣國の朝鮮の鐵道支那四百余洲の鐵道其外廣大無邊なる
西伯利鐵道の如き何れも其枕木の供給を我日本に仰ぐ。現に北海道より年々百五十万本以上宛輸出
して居るので支那では一本一圓位するのである。其外交通の事業發達に供へ船艦等の澤山殖て居
る船は黒いから鉄で造つてあるので材木がいらんと云ふ御考があるかも知れませんが決してそ

ではありません仲々大變に材木を使ふのである横須賀の造船場へ行つて見ますればど一して小さい巡洋艦一艘を造くるにも尺三本使ふのである其三千本の中二千本は外國の木即ち印度の「チイク」と云ふ木を用ふるので價格は一本五十圓から六十圓も懸るのであるこんな日本の様な山國であるに僅かに日本の木を使ふは船に先づ三分の一で三分の二は外國の木を用ふるのであります、木迄外國から買つて船を造らなければならんと云ふ事は實に相想の外ではありませんが鉄は能く外國から買ふと云ふ事は聞いて居りますが木迄と云ふ事は相想の外ではありませんが鉄よりも其外小さなボックトへ這入る燐寸の様なものも大變に出来る年々三百余萬圓外國へ輸出するのである夫れは多く支那印度諸國へ出る其から紙漉の事業等は日本でも少し起つてまいりましたが是れは將來必ず起らんければならぬ事業で私が曾て見ました處の大きき亞米利加の紙漉會社では機械で紙を漉くので一つの機械で一分間に幅二間の紙が五百尺宛平均衝き出して居るので其一つの機械で一日に漉く紙を漉紙に張りますと二百五十町の漉紙が出来るのである其紙の目方は一万貫ものであるであります歐洲に於ては最も盛に此の事業をなすので一云ふ大きな紙漉機械がいくつもあるのである獨逸に六十三ヶ處程あります實に紙の使用は非常のもので各新聞に使ふ紙は皆木から作る紙であるのであります巴里のベチットミヨナル新聞で一年間に使ふ紙は十二萬本分、當るこれ丈一つの新聞に使ふよりである一云ふ様を新聞社が佛蘭西に四千二百獨逸には六千英吉利西にては八千下我日本國に於ては二千二百ある日本では今日紙が不足して毎年四五百萬圓の外國から輸入せられ其外にポルプと云ふて紙の綿即ち機械で木を切つて綿の様にしたものが大變に這入つて日本に昔からある高知縣の土佐半紙と云ふ者は日本古有のものでありました

が今日では其土佐半紙が西洋半紙に化したので一年に四十何萬圓と云ふ紙の原料が他より這入るので今日では色々混せて漉いて居るのである簡様な譯でありますからして幾ら森林が出来ても決して困ると云ふ様な事はありません加るに近頃色々材木から製造するものが出来て絹糸杯も出すことが出来る是は材木を紙綿にして夫れに藥を懸けて水アメの様になし座操に取ると少しも絹糸に違はんものが出来ます先年シアルトンの人工絹糸製造所へ行つて見ましたが秘密であるから其製法は教へませんが孰れが眞正の絹糸であるか見分けの付かん程の立派なものが出来ます猶其外に材木を練つて木綿の糸を出して織物にして居るとか又は人工の象牙であるとか洋服の護襟ゴキョウ其他カフスと云ふ様なもの迄皆材木から出来る皆藥を練りものにして拵へるのであります其外山林より炭を取るとか酢酸を取るとかアルコールをとるとか云ふ副産物を數ふれば實に澤山のもので色々製造事業工業事業を起し今日の林産は決して木材として其儘で世の中に使はるゝのみならず其外に形を替へて幾多の製造工業事業に使用せらるゝのであります諸君眼を轉して此世界各國に於ける經濟上の進歩發達する状態を見られよ交通の便未だ開けざる時代智識の普及に大なる違ひのある時代に於ては或國に於て便利なる一つの機械を發明すれば其國は深く秘察に付して其機械を以て利益を得る事が出来ましたが今日では昔と異なり實に交通の便が發達して従つて智識の普及速かるが故に例へば或る一つの國に於て良い機械を發明しても其發明者が長く其利益を壟斷することが出来ません彼の紡績糸發明の如き近頃迄は遠い外國から來たと思ふたあの唐糸は英吉利で紡績機械を造つて印度より木綿を持て來て英吉利で糸を績いで居りましたが運賃に費用を要するより今度は英吉利より機械を印度に持つて行き其業に従事す

る様にあり黒人が皆續いて居ります其他方々で皆眞似をしたので日本の紡績の如きも其眞似をしたのであります

然れば將來何ふ云ふ性質の國が色々製造工業事業が發達して所謂富國強兵の實を擧げる事が出来るかと云ふと私は茲に斷言するは憚からん即ち製造工業上に要する處の原料を連續して絶へ間なく多量に供給し得らるゝ國であること云ふ事を云ふに憚らんものである原料さへあれば資本も智識も集り其國は自然繁盛するコンチネンタルの煙筒が日耳曼の山の中へ轉居したと云ふ事も矢張コンチネンタルには原料が無いからでありますセルマンは國中全体悉く森林を以て掩はれて居る程の原料があるから皆この山の中へ引き越してくるのである而して其製造工業に要する處の原料を全一地上より最も多量に引き續へて産出し得らるゝものは山林の事業であるのでありますから此の事業は一日も緩慢にすることは出来ないのであります

幸ひ此信州の國は昔から山と善光寺を以て名高い位非常に此森林に富んで居るか故に此廣大ある森林の面積を能く殖林しましたなら自然と資本や智識が茲に集つて色々の製造工業の事業が勃興して日本國中最も富裕ある繁昌の土地になる事と斷言して疑はん者である假りに數歩を譲りましても今暫くの間こゝ云ふ風に製造工業の事業が起らんくも只木材を伐り出して行く計でも大なる利益があるので是れを假りに吉野の例をとりて申しますると吉野にては平均一丁歩に付て卅八圓の儲があるので是は平均にせる純益であります勿論本縣に於ては吉野とは異なり鐵道があつて四通八達の利便が多い故純益も多い譯でありますが假りに吉野と全しく一町歩に就て卅八圓の利益がありとすれば信州の民有丈の山林原野四拾一万町歩ある故毎年一千万圓の純益金が

かければからかいので即ち凡ての費用を引いても一千五百万圓宛にあるので是を信州の戸數廿三万户に割當てると一戸に付六十七圓宛の割前を貰はらるゝ譯にある此の一千五百万圓上がる金を五分の利付の資本に増算致しますると三億万圓此の三億万圓に相當する公債證書を信州人は先祖から貰つて其利足が年々一千五百万圓宛受け取る可き權利を以て居るので是れは民有丈の山林である是れに國有林御料林を含ませますと實に三倍にあるので此位仕合の縣は外にはるかろゝと思へ升私か先きに本縣の將來に向つて喜ぶ可き祝すべきものがあると云ひし事は以てあります而して諸君が果して此の三億万圓の公債證書を大切に利足を怠らずに受け取つて居るや否や私は此の三億万圓の公債證書を無暗に焼いたり切たりして或は借金を子孫の爲めに殘されはせんかと疑はれるものであります諸君試よ本縣の山林の状態を見られよ善光寺様と共にさしも評判なりし信州の山林は今何處にあるか汽車から通りながら見ましても森林として恥づかしからざる山林が一もない民有の山林が廿四万町歩もありながら其百分の一でも立派に林をあして居るものが無いだらうと思ふ何處を見ても皆芒々たる草山にして天然の松又は雑木の藪の様なる山である論より証據汽車があるにも不均信州には名物たる木が在り爲めに却つて長野上田邊りへは家を造る木が東京や越後から來て居るのである是れは即ち信州に山林があつても利用して居らんと云ふ證據であります只此森林の大部分を利用して居らんのみならず年々火を付けて山を焼いて居る元來火を付けて山を焼くと云ふ事は野蠻の遺物であつて信州人の如き文明人のあすべき事ではない昔は交通が不便の爲めに肥料等を他より得る事が出来んが爲めに草山が必要であつたので従つて火入等を必要があつたかも知れませんが今日の如き交通の開けた時代に於ては支那の豆粕で

さへも何處へも来て居るので燐酸肥料の様なもの迄幾らもあるので山の草斗り肥料にあると云ふ譯では決して無い安い肥料を得んとて大事の山を焼いて高い木を東京や其他から持ち込むには實に譯の分らん話ではありませんか此の信州の生産から益々利用せなければならぬと云ふ時代に於て實に誤つた遣り方であると云はなければなりません假りに數歩を譲つて草は必要であると假定しても焼くと云ふ事は決して能くなく事である焼くと云ふ事は草を無くする工風である實際山を年々焼きますと草の種類が減る例へは草の種類が百種ある者が年々焼かれるが爲め年々種類を減ずるのみならず肥料になる處の良い草はなくなつて悪るい草ばかりよめる諸君若手縣盛岡地方の馬や牛の産地で原野が多くありましたか年々草を焼いた爲めに今日では良草はなくなり蔵庭芝等の草しかないので今日では草がない爲めに牧場の業が衰微して困難を來して居る獨逸佛蘭西の様を米の代りに牛を食ふ國に於ては山林の中腹以上を一面の林となし充分水氣を持たして其中腹以下を草場として牧場に當てるか爲めに良い草が澤山で決して困難する事が無いのであります又彼の國では決して山を焼く様な事は致しません然るに本縣の今日の有様を見ますと山の天邊迄火をつけて焼くので益々木立をして悪しからしむる者である爲めに洪水とか又は旱魃の虞を残すので即ち子孫の爲めに借金を残すと同じ事で私が先きに本縣の現在に於て大いに悲む可く又愛ふ可き者があると云ふ事を申しました事は即ち此の点に存する者である幸此の本縣の山の荒れ方は未だ極端に達せず神戸岡山地方の如く全体に付て未だ極端に達しませんが故に今日の處多くの山へ木さへ植へれば能いのであります彼の博覽會に名譽ある銀牌を得た本縣の南佐久郡の大澤村の如き良い森林を仕立て木材を出して金さへ取れば肥料採も買ふ事も出来る本縣の山林の状態も

今一步悪い方へ進むと云ふと容易な事では回復が出来るので木を殖へるにしても前席に保科村長のお話のありましたる如く先づ石垣を築いて而て後に山を拵へるしして未を殖へると云ふ事を申では實に由々敷大事と思ふのであります實に今日本縣の状態は急に山林に殖林せんければなりません誠に信州の山林の状態は危機一髪の間迫つて居るのである賢明なる本縣の諸君は天下に卒先して木會に地方山林學校を設けられ猶又此の有益なる山林會を設けられろしして大に林業の奨勵に勉めらるゝと云ふ事は諸君の意のある處蓋し知る可きのみ、かまか故に此機をはずさず大に積極的に林業の經營に従事せらるゝ様に願へたいと致しますれば一方には莫大なる金錢上の利益一方には國土保安上の利益を全ふ事が出来る事に相違ありません是れ即ち本縣の將來に就て喜ぶ可き事であると云ふ所以でありますし此の信濃の國は山林を本として外の事業を起さなければならぬ諸君が年々洪水が起るとか又旱魃を來すと云ふ事を云はれますが是れは山林が荒れて居るからであります、かるが故に今日は先づ何を差し置ても林業の改良を計り折角進み來れる養蠶其他農業等が後戻せんよにせんければなりません農業であるとか養蠶であるとか其他將來益々更に新たに起る可き幾多の製造工業の事業を完全に進歩發達からしむるには先づ以て林業の改良進歩を充分に計らなければならぬものであります即ち本縣に於ける殖産經濟上の大方針として少くとも四十一万町歩に亘る民有官有の原野を悉く調査せる森林にする迄は官民一致全力を注いで行かなければならぬと斷言致す者である近頃噂を聞く處によれば本縣に於ては縣有の基々森林を作らるゝよりであります私は是れを學理の上から見まして即ち縣下一般交通の便利の發達の爲めに自然に増すべき利益は又一般縣の収入にさすを至當とする學理より見ま

しても將之を信州に於ける今日の實際に徴しましても即ち縣が完全なる處の森林經營をして以て此の一般人民をして則らしむる必要があると一面には縣費の財源をなすと云ふ点から見ても最も結構ある方法であると思ひ升即ち此信州に於ける積極的事業の一として大に賛成を表する者である猶私は是れより進んで夫々山林を經營する方法に付悉く御話致したのであります。時間が切迫しましたのと且つ今日の問題外にもある事と信じますが故に今日は是れで御免を蒙り升(拍手)

公 有 林 に 就 て

御料局技師林學士 田 中 勇 太 郎

私の演題は公有林であります、そこで公有林と申すのは行政上の自治体又は其一部及び學校、社寺等に属する山林を指して居る積りてあります、公有林と云ふ名は適當でないかは知りませぬが、當縣の通用語となつて居る様でありますから、先づ一として置きます

さて此公有林に付ては本縣に於ては大分御注意になつて居るものと見なしまして曩きに公有林に就て取締規則を御發布にあつて縣下の一問題となつたと云ふことを承はつて居ります、又此信濃山林會杯ても前集會に於て博士、政治家に要めて此問題に就き御論明があつた趣きであります、誠に此事たる本縣に於ては一つの重要問題と考へます依て私も不肖を顧みず此演題を掲げて聊か陳述致さうと思ひます、暫時御清聴を煩はします、

そこで私は此演題を二段に分けて第一公有林の成立第二公有林の經營監督と云ふ順序に述べようと思ひます、御承知の如く本縣に於ては學校林、社寺林は姑く措き町村有、區有若くは郡

落共有等の山林は之れを他縣に比して著しく多い、それは何んであるか乃ち封建政治の時代に於て小藩が分布せられて居つた結果其藩政の概して森林の管理保護と云ふ点にまで十分力が展ひあかつた、多少の御林とか御止山とか云ふ者はあつたけれども其他は多く村方より山役、小物成又は何々運上杯と稱する料米を納めさして雑草、小柴は勿論、薪材までも採取を許し、其管理保護と云ふものは殆んど村方に一任してあつた、それで村方では到る處僅かの冥加で秣を薪なり自由勝手に採取する、用材にした處が簡単な検査を受けて僅かの運上を納むれば伐出すことが出来る、云ふ風でありますから秣場なり薪場なり無闇と廣く使ふ習慣がついて御林御止山でかい限りはドシ／＼侵入して行つた、そこで入會場の争論が始終絶へない此處でも裁許彼處でも仲裁と云ふ風で村々で入會區域の争を頻りにやつた處が此争ひたるや恰かも所有地の境界論のように思ふてままつて、山役、小物成等を納めて収益のみを許されて居る土地をダン／＼其中へ焼畑を作つたとか、開墾をしたとか又は樹を植へたとか乃至質入書入をしたとか、遂には自由進退の形跡を現はして来た、之れと云ふものは必竟藩の力が十分山林に及ばさあかつた爲めであらうと思ふ、然るに御維新が来た、大詔煥發、藩藉奉還となつたこれする内に地租改正と云ふ事が初まつた、さあ藩山は皆官山だ處で今申す雑草、小柴乃至薪の採取地たる山野は官山であるか民山であるか官民有の區分が面倒であつたらうと思ふ、そこで又一面にはこう云ふ風をものぞきな官有にしてままへば村々で今日まで自分のものゝ様に思つて来た山と云ふものか殆んど無くある、肥料には困る、牧草には困る燃料にも差支るとかうなる、處で前申す通り藩の方では山林に及ばず管理行為が十分行はれて居らあかつた、村民の方では反對に自由進退の形跡がある、これが皆を地租改

正の目安に及第して夫々民有の地券を渡された、こう云ふものか恐らく本縣には多かつたのであろう、是れ乃ち信州に町村又は區有の山野が多い譯けてあろうと思ひます、處が獨り西筑摩郡斗りは少し違ふ、御承知の通り御三家の一たる尾藩の所領であつた、何にせよ大藩であるから地方政治は素より山林原野に至るまで能く權力が展ひて居つた特に此西筑摩郡乃ち木曾谷に付ては種々の關係より嚴重なる林政が布かれた、其結果として此郡に於ては或る特殊の性質あるものを除くの外村民の自由勝手に任してあつたものは少しも無い、殆んど全部が藩山であつた、尤も雜草小柴の刈取若くは雜木の採取を許されて居つた場所はあつたけれども、他藩と違ひ制度が嚴重に行はれて居つたから、改租の時にあつて他地方の目安通りでは直ちに民有の地券を渡すことか出来まい、そこで段々詮議の結果、五木は相當に拂下け其他土地物件とも無代下付と云ふ、一種獨特ある行政處分によつて、どうも民有に歸してままつた様に思はれる、それであるから西筑摩郡に於ける今日の町村有、區有又は部落の共有と稱する山野の歴史は他郡と少しく違つて居る、併しから改租の結果民有に歸したる点に至つては他郡に決して劣らまい、寧ろ多い位であると思ふ、兎に角こう云ふ都合でありまして本縣には公有林野なるものが甚だ多いのであります、此事は國家經濟の上からの議論は姑く措いて、自治團體にとつては種々なる点に於て大に慶すべきことと考へます、

本縣に於ける公有林の成立及び其多大なることは只今述べたる如くでありますか、他縣は如何であるか岐阜縣は著しく多い、併し其他の縣は遠い長野縣に及ばない、夫れは林地が一般に少いこと云ふ關係もありますが、又た前來述べましたる藩政時代に林制が比較的發展して居つた結果

地租改正の時になつて、民有と認むべき目安に及第しなかつたからであらうと思ひます、今より十年前私に或る縣に勤めて居つたとき、こゝか此公有林の整理をして見たいと思つて、調べて見たことかありましたが、彼處此處にチヨイ／＼在るけれども、本縣の如く到處町村有部落有の山野があると云ふ譯にゆかぬ、随分雜木山や、草山や若くは十數里に亘る原野が澤山あるか、多くは官林、官有地又は御料地であつて民有のものは甚だ少ない、そこで官の經營に適應しないもの、一日も早く町村の經營に任した方が良からうと云ふ、意見を懐いて時の當局者の中つて見たことかありましたが、あちらには夫々都合があつたものと見へまして、意見を容れて貰ふことか出来なかつた、そこで時機尚ほ早しと考へまして、それから豫て理想に画いて居つた北海道へ行つた、こゝで町村林の設定を實行しようと思つた、そこで先づ官林に適應せぬものは町村林又は町村林に適應せぬものは個人私有林夫れにも適應せぬものは農牧地と、五百万町歩餘の面積を大体四種に區分し其内より町村林として百二十萬町歩を豫定した、乃ち近き將來に於て町村か全道に六百出來るとして平均二千町歩に當る、之れが開拓終極の時に二千四百町村に分裂しても尙ほ五百町歩つゝ當ると云ふ目算でありました、之れは今でも北海道林政の方針にあつて居るだらうと思ふ、併し法律の力に因らなければ官より離權することか出来まい今日の處では僅かに一萬町歩斗りである、其他町村林などは僅かより外無い府縣が幾らもありません、然るに幸ひにも此信州に於ては夫れが澤山あるのであります

さて此の如く豊富なる山林原野あるものか、村方の全然自由進退に歸してより、茲に殆んど三十年を経過したる今日、果して夫れが合理的、經濟的に經營されて居るか、こゝか、之れは林業、農業、

畜産等々其立場から見ると因て違ふ、併しから農業にした處か、緑肥を、堆肥を、何れだけ作られて居るか、開墾、養蚕は如何程利用せられて居るか、牧草の改良は那邊に達したか、産馬養牛のどいであるか、多少の成績は耳に致しまするが、全般より見ますれば實に微々たるものであらうと思ふ、之れは恐らくは其土地其ものか此等の事業經營に必要な要素を備へて居ないのである、加之の内に研究を要すべきものである、然るに近年林業の方面に於ては、縣の側では公有林取締規則の發布、苗木の下付、施業の計畫等、消極、積極兩手段を以て着々獎勵をさされる又た郡の方では巡回教師を置いて實地の指導に盡される、うこで以て年來荒れに荒され虐待之れ極まつて、加かも營養は不十分、將さに骨が露はれんとするまで瘠せきつた處の山野が此頃僅かに回復の緒に就いて、少しは脂も乗り肉も付きかゝつて來た、併しながら未だ今日位の程度では決して安んずることは出来ない、由來林業なるものは其端緒に就くことは容易である、金も多分にかゝらず、仕事も六ヶ敷くない、けれども終極の成功を期せんとするには、確固不拔の計畫をして置かねばならぬ、而已ならず非常の元氣と耐忍を以てせざれば能はぬのである、況んや己に肉が落ち骨が露はれてやがて匙を投げんとして居る、山野も少くあゝい、是等は非常なる熱心を以てしなれば成功しない、うこで林業なるものが果して夫れ程までに經營しなればからぬか、世界の大大勢上將來益々有望ある事業であるが、又た其事業が部落、町村之を大にしては郡縣等の經營に適せるものであるが此点に就て十分卑見を述べやうと思つて居りましたが、已に只今本多博士が遺憾なく御述べになりましたし又た前年本會に於て川瀬博士が林業は自治体の經營に適すると云ふ点に付きまして詳細なる演説もありました趣きてありますから此点だけは省いて置

きます

次に公有林の監督である、總て自治体の収入支出及び基本財産に付ては地方制度の上に於て夫々規定せられてありまして、殊に近年種々の規則や訓令杯で、整理監督を勵行せられて居る趣でありますから、公有林に關しましても其經費の出所支出の行途或は其収入より轉じ來りたる基本財産に到つては必ず其整理は出來て居ること考へる、併しながら之は金額とか、土地とか云ふものゝ數にのみ行届て居るのであつて、其支出した經費が果して有益に使用せられて居るか、収入は果して合理に収獲せられて居るか言を換へて申せば、事業が適切に經營せられて居るか、何うとか云ふことである、乃ち今日の法律規定と云ふものは、狹義に於ける財産の監督と云ふものにあつて居つて、事業の監督と云ふものに至つては、法律命令が出て居ないのであります、中央政府に於ても夫に付て熟考中であらうと思ひまするが併しながら其規定の如何によつては、徒らに事業を束縛して、經濟的の仕事が出來なくあると云ふこともあり、又た左なくも繁劇ある地方事務を一層増加すると云ふ嫌があり、も一つは貴重なる國費なり地方費なり幾分を要すると云ふことにあるから、これは十分熟考せねばならぬ、入費も手間も知れたものであるとした處で肝腎の事業を監督する人間がない、ごいしても林學林業に堪能なる人間が追々殖へて來て、世間に在り餘つて、幾らでも使かへると云ふ時が來なければ面白くない、夫れで此事業の監督と云ふものか法律規定によつて行はれると云ふことは當分當てにすることは出来ない、本縣では縣令を發せられ又た技術者を置いて着々此等の監督に力を御盡しにかつて居る、併しながら縣下多大の公有林に對して僅かの人間、僅かの費用、到底十分なる監督が出來るものではない、うこで私は先づ第一下

町村あり區あり部落あり、山林所有者其ものに對つて望むのである、自分の財産の經營に付て官の監督を受けると云ふことは不名譽である、否も不利益である、自力を以て十分に經營し、自力を以て立派なものを拵へて以て之を他の模範にしてやろう、十分經濟的に利用してやろうと云ふ名譽心及び營利的志想を發揮せられんことを望むのであります、第二には直接監督官衙に望むのであります、それは今申した處の自治團體其ものか、自力で奮發して着々實行すれば宜し、左もなくして緩慢に流れて居るものに向つては規定に由て與へられて居る監督權をドシ／＼行使して場合によつては前申した狹義の解釋を可成廣く押し擴げて事業上に迄立入る様にされたならば如何であらうと思ふのであります、第三には此信濃山林會に望むのであります、夫れは會員の内から公有林取調委員と云ふ様なものをして置いて其委員は各自地方の公有林に注意することは勿論、他地方と雖も苟くも事業の經營不行届と認むるものは、之れを本會に報告させて、本會は一面之を監督官衙に忠告し、一面は所有者に向つて懇篤に勸告すると云ふことに致したい、之れと同時に經營が大に行届いてあるものに向つては其名譽を表彰すると同時に、其業績を本會の報告に上ほせて、他の模範に致したいのであります、終りに臨んで此山林會に望むことか今一つある、公有林中數町村共有のものに至つては、此町村か仕事をやろうと思つても他の町村が故障を云ふ、又一町村有のものでも此區と彼區と意見が合はぬ、區有にしても此部落と彼の部落と考へか違ふ、或は一部落の内でも地主と小作者とは利害を異にする云ふことかある、之れは公有林經營上常に横つて居る障礙である、因て本會は此点に向て十分公平なる調査を遂げ、一定の意見を立て、相方の一致を圖るの手段をとるか或は監督官衙に提供して相當の措置をして貰ふ

と云ふことに致したい此事は單に公有林許りてゐい、數人の共有林又は私有林よ於ても或は習慣とか或は強迫とか云ふものによつて總て皆森林經營の障礙となつて居る之れを取り除けることは是又本會の爲すべき仕事の一つであらうと思ひますこれだけ……

山林の生産力に就て

農商務省技師林學士 長 倉 純 一 郎

私は山林の生産力と云ふ事に就きまして一寸と御話致すつもりであります時間が迫つて居りますから大体丈を止めて置ふと思ひます實は此の山林の生産力と云ふ事の余程大きな問題であるのでありますか今日は簡単に申し上げる積りてあります

只今本多博士や金原翁が森林へ必要であると云ふ事を詳細に述べられ猶又今日は本縣に於ても既に山林會と云ふものが設立せられてあるので諸君は余程山林事業上に御熱心に御從事をされて居るので私は先達て新潟縣富山縣石川縣福岡縣等へ參つて見ましたが町村及び大字等の公有山林の經營に付きましては本縣を以て第一位にあらうと存して居るのである諸君は能く御熱心に山林を經營せられて居られるから將來必ず見る可き公有林が出來又普通の一己人の森林も之に伴ふて充分に繁殖せらるゝことが出來ると思ひます固より國土の保安上國家の經濟上林業は是非とも經營せなければならぬ事でありませぬに日本か世界の檜舞臺に立ちて西洋と交際する様になりまして國費多端の折柄國家の財源を求むる点に於ても林業の經營は最必要であるので之れを小さく申しますと一己人の財源町村の財源を得る爲めにもどししても何にか一つの事業を起さなければあ

りません其事業は何者を選ふべきかと云ふと寧ろ今日手の付けてない處の山林を適當に經營して多くの財源を得る道を求むるを緊要なる方法であらうと思ひます然るに翻つて日本の森林の生産力と云ふ事に就て考へて見ますとおしいか日本日本の森林の生産力は申すに及ばず長野縣に於ける森林の大部分と云ふものは大に生産力を減失して居るからして余程是れは惜むべき事であるのであります凡て死んだ兒の年を數ふる様なものではありますか是れは呉れ／＼も惜まなければなりません約り山林の生産力は何によつて成り立つかと申しますと諸君も御承知の通り即ち其山林地の土壤と肥料即ち朽土との此二つのものか重なるもので此の二つのものかありませんければ森林の生産力は全く劣悪にあるので其土壤と朽土の深淺厚薄によつて山林の生産力が多少の區別あるのであります



山林を解剖して見ますと茲に御示し致しました如く山骨は岩から成り立つて居るので加様にして山は起伏をなして居ります此の山に樹木があつて其樹木の葉が年々落つてくさつてそゝして朽土とあるので其朽土の多少に依つて山林の生産力に多少かあると云ふ事にあつて居るので實際山林の土地の價値は全く朽土と土とによつて高低かつ／＼のてあります夫れから凡て山林の何故に朽土や土壤を保有するか一方より見ますれば傾斜の土地であるのに朽土等を山林中に保有する

を得るは誠に妙なことの様を感じられますか是れは山林の地は樹木を以て掩はれ直接に雨が降下せず其上に草木の根や蘚苔朽土等が存在しあるか爲めに雨が降つても雨水は蘚苔朽土等の爲めに吸収せられて其中を流れて通るか故に痛まんので是れと反對に此の山にある處の木を截りますと雨が降れば直接に土壤を打ち流しますか爲に急に水が流れ出し朽土等を流失して山をいためるのである昔は山と云ふものは幾らでも木を出す事が出来ると思ふて無暗に木を截つたか爲め即ち乱伐の爲め近年の如く洪水の害が打ち續くので山の土壤と朽土が年々少くあつてくると云ふ状態で誠に慨はしき次第であるのであります前に申す通り山林には朽土があり又土壤があります其上に木が立つて居るのか山林の状態であるのでありますか今日では山は荒れて單に土壤が残つて居る斗りのものか多くありました之を實例を以て示しますと

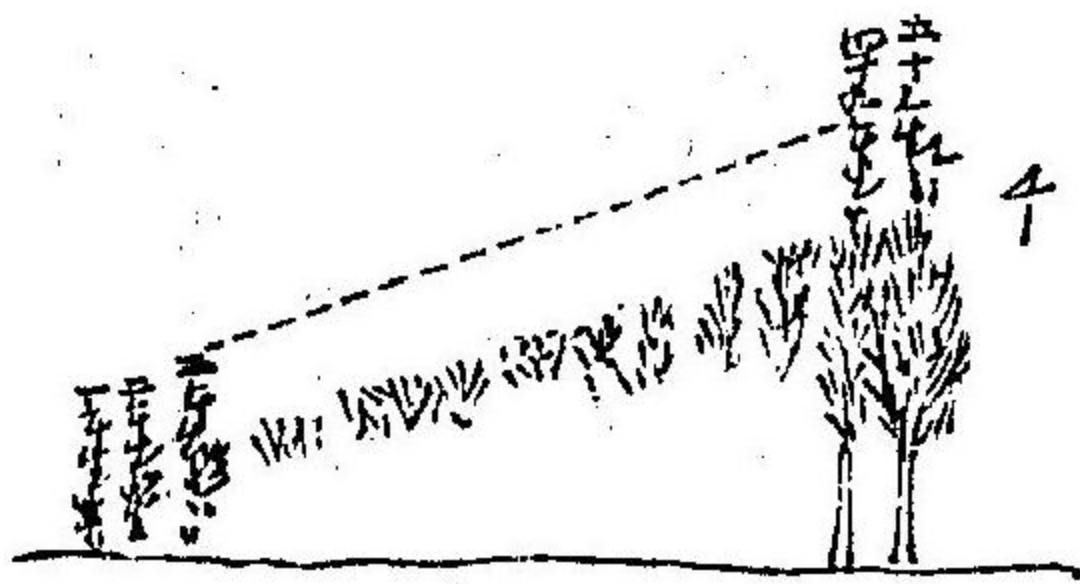


是れか樹木の存在する山林の状態に樹木のある山は土壤は申すに及ばず朽土が澤山にあるので此の木を乱伐致しますと

こんどは枿土か3圖に示しました如く押流されて滅失致しまして地方か減耗するに立至ります勸業の偏倚と云ふ事は大ひに悲む可き事と思ふのであります。仮ば蠶業か非常に發達した場合に於て桑の繁殖を謀る方法として山林を開墾して植付けることかあります。夫れは山の何處へ植付けるかと申しますに多くは山の半腹に植付けるのである。山腹平坦ある箇所は桑畑にしても宜ろし然しかがら今日では其養蠶の爲めに畑地に適當せざる部分即ち山岳急峻の箇所桑を殖へつづけるので土砂崩壊流出し國土保安上危害の虞あるのみならず山地瘠惡となり其結果は甚だ悲むべき事であるのであります。是れは畢竟勸業の偏倚より來る結果にして特に注意を要することである之れは獨り人民か悪るいのみならず當時の勸業奨励上當局者も多少其責かある一と思われまます。凡て箇様にして往時よりして山林の生産力が減して參たのであります。か其當時私をして山林に代つて言はしめた。ちらは次の如き不平の語を發するであらうと思ふ。桑畑あり田地あり山林あり皆一家の財産であるのに主人は獨り山林を顧みないで打捨て置き田畑牛馬に毎日朝から晩迄肥料や食料を興へて能く可愛かつて居る其の上に山林に對しては着物と頼み傘と頼む樹木を切り取り林地を開墾して其皮肉を奪ひ去り骨か露出して此上は何事も爲し得ぬと云ふ事を申すであらうと思ひまます。然るに幸に今日の狀況にては實に山林を保護せんければからんと云ふ事を注意せられた爲めに山林は段々と前より申しました様を不平を除くたろと思ひまます。

昔時の様に紊りに樹木を伐採するときは其山は荒廢して是れを舊狀に回復せしむるに一町歩少あくとも百圓以上を要し甚たしきは二三千圓も懸けなければ山は元の如く回復することか出來る。い之れ山の力を計らすして乱伐した結果恰かも其山林乱伐の罰金であるので木を切つた代價より

は余計に山林に取戻さるゝものである。此の山の力を計り森林の生産力を計りて木を切ると云ふ事は誠に大切の事であることは最早充分御承知になつたことであらうと思ひまます。夫れて山林の事業はご一して經營したらは宜しきかと云ふと毎年の伐採量か林力に對し適度でなければからんのであります。即ち毎年其山林から生長する處の生長力丈けの材量を伐採して行くのである。其山は決して荒廢に歸すると云ふ事ありませんのである。只木を切れば水源か涸ると云ふ事計り恐れて決して木を截らんと云ふ事は山林の經濟上誠に不得策の話を段々山林の生長力を計つて其力に相應する丈け伐採を爲したから決して山林か荒廢すると云ふ憂かあいのてあります。是れを圖に示して明かに致しますれば



箇様に山林内に一年から五十年迄の木があると致しますれば即ち毎年此の五十年に達したものでより年々截り取り伐木するとの時に年々其跡地に苗木を植へ付けて行けば其山林内には常に樹木か空地なく成立しうして毎年其山の力によつて生長する生長力丈伐採するのであります。か故に

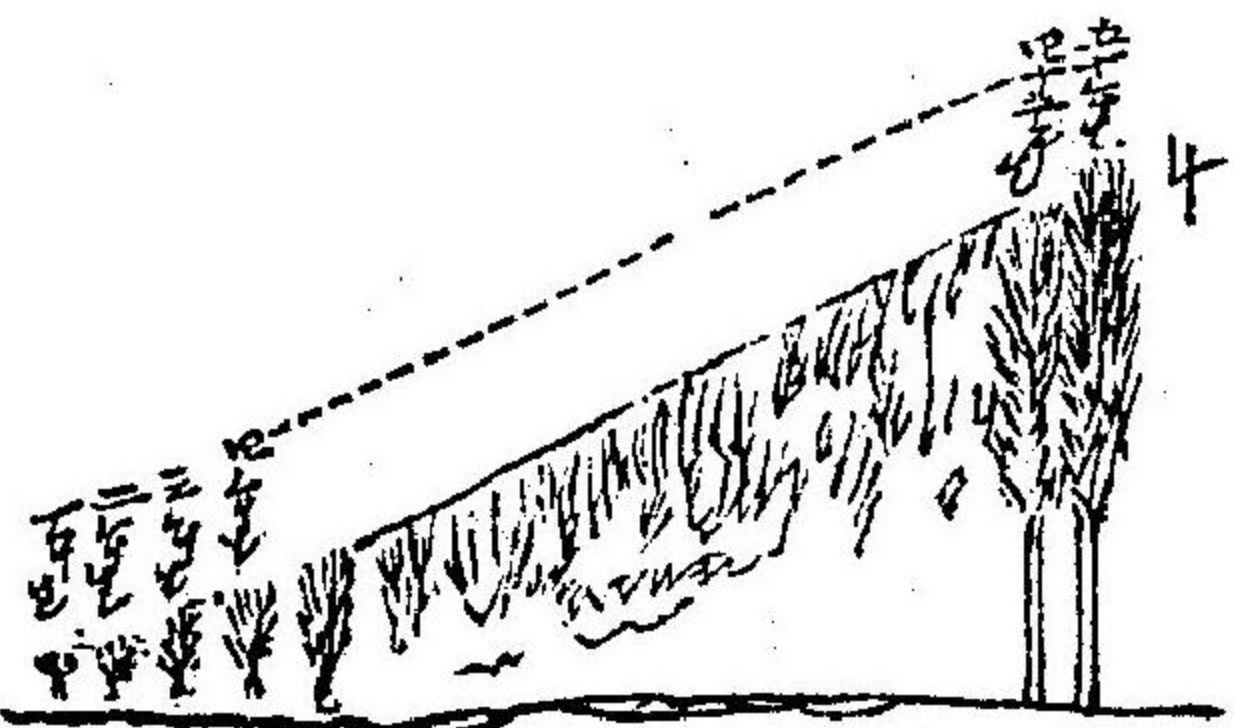
決して伐木を致しても一時に雨水の暴溢し土砂の流出する様事かありるのであります今申し上げた通り山林に樹木が繁茂して居りますれば其山林に水が能く含まれて居つて土や朽土は決して流失することが全く完全に保有されて居るか爲めに益々其生産力が増す爲めに是れを毎年安全に伐木する事か出来るので夫れを全く反對に無暗に木が大きくなつたと云ふて切り出して仕舞と山が禿けて雨が降る度に皆山の朽土即ち肥料とあるへき土が川へあかれ海に流失するので其山は瘠悪不毛の場所になるのであります今日の荒廢の狀を呈したる此の山林を繁茂せしむるには諸君は熱心に山林の經營に従事せられなければならぬ然らざれば必ず回復する事か出来ぬ事と考へますのである充分に山林に就て其生産力を高めようするには勿論長き年限を要し容易なる事柄でないものである又生産力を適當に利用すると云ふ事に付ても將來大いに注意を要する事であり先程より述べ來りました如くごりか益々盛に此生産力と云ふ事を甘く利用される事を將來に向つて御注意を望む次第である此の生産力と云ふ事は今申し上げた通りでありますか此の生産力の利用の方法に就ても處によつて色々相違致して居りまして何處も此處も同じ様には参りません能く其山の地味地質又方向等を調査して其山に適當なる計畫を立てなければならぬと思ひます町村の共有林を造林するにも能く其山の成立即ち地味、地質、方向、運搬の便否等を考ひて植付なければ良好なる其成蹟を得られぬのである又苗木を植付けるにも澤山植付ければ夫れで能いと云ふものではないのであるから是れらも能く注意して豫め將來に於ける其山林の計画に伴ふ様に造林を爲さなければならぬことでもあります夫れから苗木を植付けるにも大に其植方に注意を要します是れは諸方て聞く事でありますが早魃の時に植付をなしたるに山の峯の苗木はついたか中腹以下の苗

木は枯れた是れは何んの爲めであるかと云ふ事が屢々質問せられるのである是れは能く考へて見なければなりません山の一体生産力とある要素は何處にあるかと云ふ事を知らぬで考へて造林を行ふの罪であると思ふ凡て山は傾斜をなし居るを以て峰の方は朽土が薄く中腹以下は朽土が厚くあつて居るか爲め峰を一寸深さに掘りて植たからと云つて下方山麓の部分も一寸深さで宜しと云ふ事は申されないのである何故をれば中腹以下は朽土の堆積が厚き爲め一寸の深さにては未だ土壤の部分に根が達せんのであるから其處に生長することは出来ぬ故遂に枯死するものであります是れは造林上大に注意せなければなりません事である夫れから山に樹木繁茂しあれば水源涸渇と洪水とを防ぐ事は既に御承知の事で御座りませうがけれども幾ら山でも苗木を植付ければ夫れでよいと云ふものではありません樹木と云ふものは枝があつて此枝の爲めに木が大きくあるので木の骨を作るのか枝である即ち此の枝から炭素分を取つて木に肉を付けるのであります夫れから又此の木の枝が無暗に繁り又木立が厚くあつては良木は出来ませぬ故に間伐と云ふ事を怠らぬ様注意しなければなりません間伐をして枝を適度に保持せしめされは樹木の細長くあります凡る樹幹を圓大にするにも扁平肥大にするにも細長にするにも皆手入の方法に依て自由に成長せしめ得ることが出来るものでありますから此の間伐と云ふとは決して怠つてはなりません又能く注意して其方法を誤らぬ様に致さなければなりません夫れから苗木を植付けるには一坪四本つととか二本つととか植付くるのに厚きか能いか薄きか能いかと云ふことはごりも凡て其土地の運搬の便否、地味の良否傾斜の度合等によつて考へて其方法を定めなければなりません仮は運搬の良き處は密植をあすか如く地味の良き處は割合に薄く植ゆるも成林上差支なきか如く故に厚くてよ

いか薄くて能いかと云ふことは實地の關係に依て定めなければならぬことであります又山林の事業を經營するに就ても將來に於ける木材使用の方法如何と云ふことも篤く考へて豫め將來其使用に相當する苗木を植付けなければ折角困苦して造林をなし山林を盛茂せしめた處が夫れ程有利でないのてありますから此等の点も能く注意を要する点であろうと思ひ升造林を致しまして山林を仕立てまして一時に皆伐すると云ふ事は行ふべき事柄でありませぬ矢張輪伐を行ふことにして年々一定の材量を伐採するとかよから一と考ひます

約り是れ迄の如く此の山林が荒廢したと云ふ事は矢張前に申述べた様に勸業の偏倚せる結果であるから自今は勸業に偏倚せぬ様に山林の事業を他の農蠶等の事業と共に一に進歩發達せしめて行かなければなりません勿論の話であります之を實行する上に於ても又極端に走らざる様に能く注意して豫め百年先或は五十年先位の計画を立てて夫れに相當する設備を爲しうして山林事業を進めて行かんければならぬ事である即ち山林事業のみに偏傾せぬ様に又無謀に造林を爲さぬ様に御注意あらんことを希望致します若し諸君の今日經營せらるる山林の事業の施設が適當あるを得られたらば將來に於て本縣の四十万町の山林は如何に立派にあり如何に収入が上がるかを試みに調ふるは次の通てあります即ち杉又は扁柏等の苗木を一本植付けてうして卅年先にあると必ず一本の價が一圓にあるから例へは一丁歩へ三千本植付けたらば卅年の曉には三千圓と云ふ事にある割合に當る故に四十万町の百分の一即ち四千丁歩より造林すれば三十年後には千二百万圓と云ふ財源が出来るのである即ち四十万町歩の百分の一たる四千町歩の山林に千二百万圓と云ふ財源が出来て是れを卅年の伐木年度とするときは一年の取得が四十万圓に達し之は千

二百万圓の資本金に對する一ヶ年の利子に當るので語を換へて言へば資本金千二百万圓の銀行と



立て年々四十万圓と云ふ利益の配當を得られる譯合でありますから之は最前も述べました通り山林の成長する丈を年々取つて行くのでありますから安全にして木を伐るとか出来、ろして更に山林の生産力を減失すると云ふ虞かなく山林經營上最も必要の方法でありますばかりでなく頗る趣味ある事柄であります本多博士は公債証書と云はれましたが私は千二百万圓の銀行を設立して毎年其配當として四十万圓宛つを得る事が出来る縣であると云ふてもよから一と思ひます本縣の如き山林國は山林の事業を經營すると云ふ事は固より議論の餘地なき話であるからさうか山に生産力の存する中に進んで山林を周到に經營せられんことは切に望む所でありませぬまた一か山に生産力には生産力は何處の山にも残つて居るのでありますから其生産力を失はない様に凡ての御計

画を此山林に向つて實施せられたから本縣將來の利益の多大あることは明瞭なる事柄でありまして、茲に申上くるの必要はかろーと思ひます尙申上度事もありませんれども今日は是れ丈にて御免を蒙ります

國民遠慮の試金石

信濃毎日新聞主筆 山路愛山

私は新聞記者でありまして林業の學者でも役人でも山持でもありませんから折角御招待にありましたが實は何も申上げることがありませんまかし若し已むを得ず一言せよとあらば私は此山林會の事業こそ則ち國民遠慮の試金石であると思上たいのであります唯此一言が私の新聞記者として諸君に申上げたいことでもあります

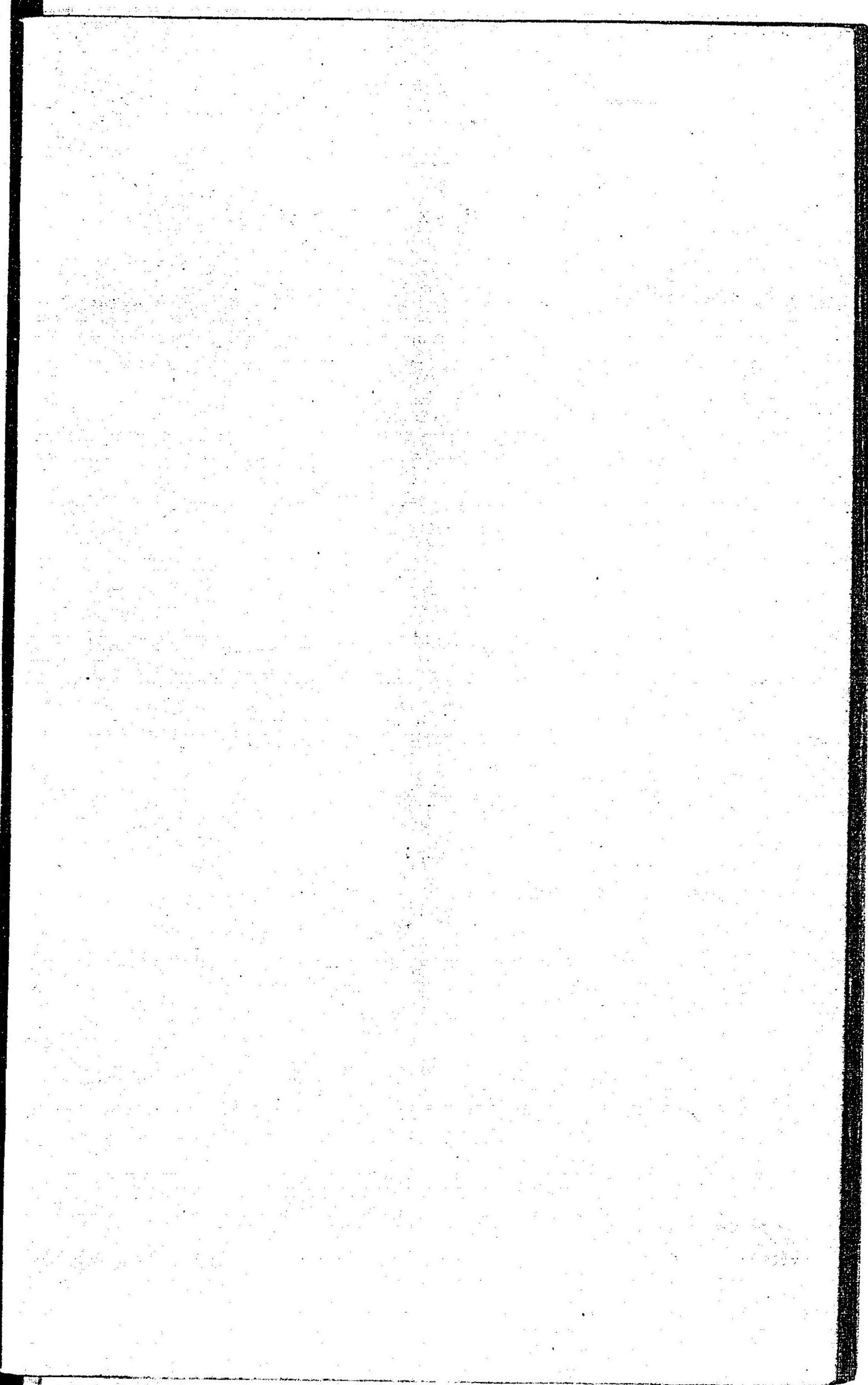
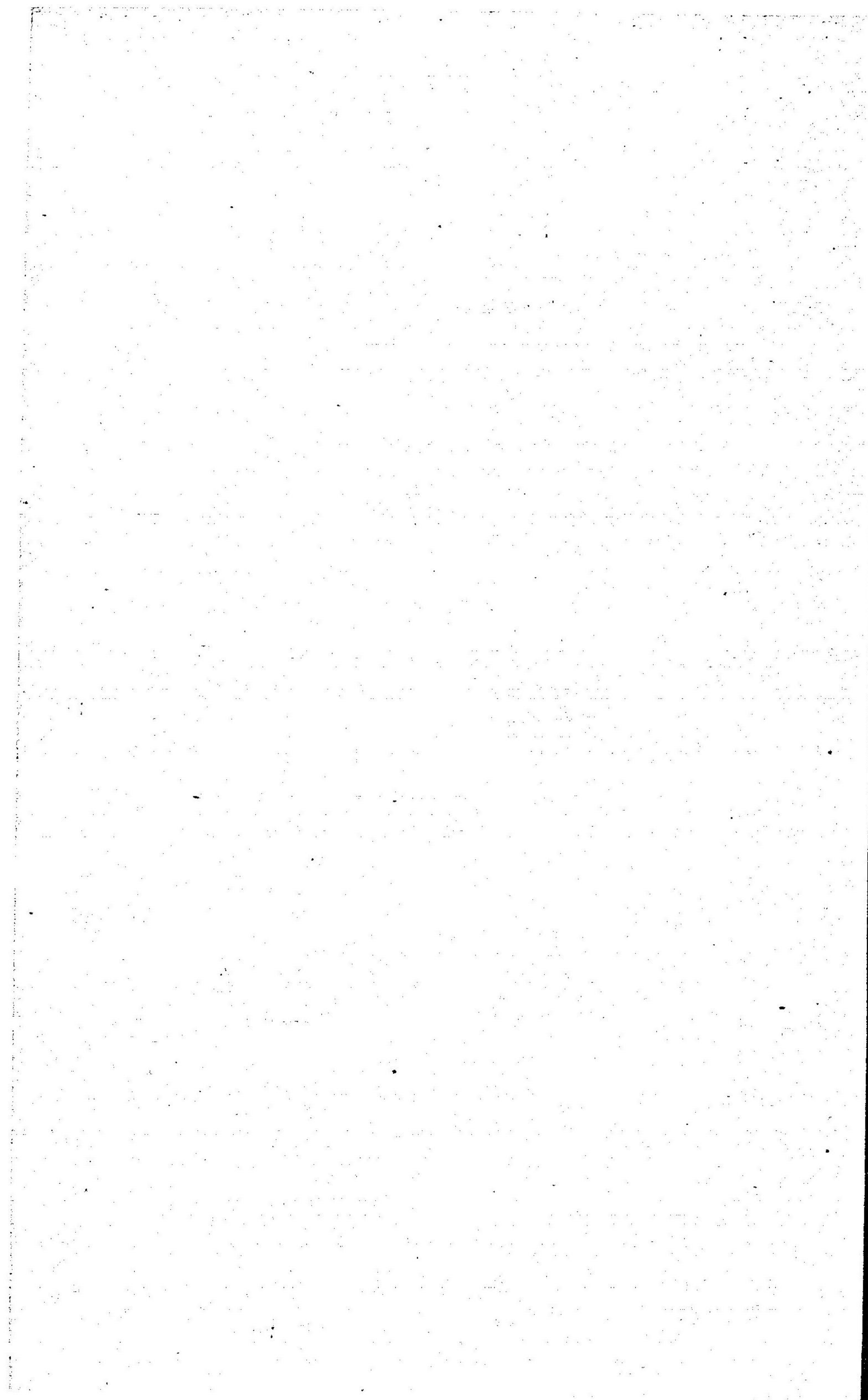
昔し或る老人が來年の花の種子を蒔いて居りましたすると若いものがそれを笑つて明日をも知れぬ風前の燈のやうな生命を持つて居る人が其生命の危いのも知らず自分はいつまでも其花を見て楽しむとが出来る積りで曲つた腰を延ばして種子を蒔くのが可笑しいと云つて笑ひましたすると老人の云ふとは、それはお前たちの心得違だ、わたしは自分が見やうと云つて種子を蒔くのでは無い、若い者は今日と云ふ目前の事計り考へて居て末の事を考へないから花の種子を蒔くと云ふやうな遠い慮がないうれ故わたしの老人の役に末の事を考へて種子を蒔いて置くのだこれは自分が見やうと思つての業では無い後の人に見せやうと思つての業であると云つたとが有ります

が山林會の事業を物に譬へれば諸君は恰ご此花の種子を蒔く老人のやうなものであります諸君

の事業は諸君自身の爲めでは無く後世子孫の爲めであります、一言の事業國民の遠慮と云ふ徳が具体的に發現したのであります

熊澤蕃山の書いた物を見ますと山には神靈が有つて住んで居ると云ふやうな事が書いてあります私は山に神靈があるか無いか、うんをむすかしいことは知りませんが、まかし山を見れば國民の遠慮と云ふ精神だけが宿つて居ることは實際だと思ひます、國民に遠慮と云ふ徳が無く耐久と云ふ徳が無く、公益の爲め私利を犠牲にすると云ふ徳が無ければ山林の事業をどう云ふものは決して功を擧げることが出来ないのであります

私は西洋人が日本人に對して色々の評判をすることを聞いて居りますが誰れも日本人の快活な人民であること敏捷な人民であること伶俐な人民であることは認めて居るやうであります、遠慮のある耐久の性のある人民だと云ふことは言はないやうであります、中には日本は火山國であつて火山國の人民の特質だ『輕卒』今日主義『現金主義』などと云ふ惡徳を持つて居ると云ふものもありません此解嘲は口の先ではいけません、山林經營のやうな事業を美事に仕遂げて見せねば、此誹謗は解けません、此故に私は此事業を以て國民遠慮の試金石と云ふ所以であります



79
491

1